平成28年第1回吉岡町議会定例会会議録第1号

平成28年3月2日（水曜日）

議事日程 第1号

平成28年3月2日（水曜日）午前9時36分開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 報告第 1号 損害賠償の額の決定及び和解の専決処分の報告について
(報告・質疑)
- 日程第 4 報告第 2号 平成27年度吉岡町社会体育館改修工事請負契約の変更に関する専決処分の報告について
(報告・質疑)
- 日程第 5 議案第 1号 吉岡町行政不服審査会条例の制定
(提案・質疑・付託)
- 日程第 6 議案第 2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
(提案・質疑・付託)
- 日程第 7 議案第 3号 吉岡町固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第 8 議案第 4号 吉岡町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第 9 議案第 5号 特別職の職員の給与及び旅費支給条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第10 議案第 6号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第11 議案第 7号 吉岡町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第12 議案第 8号 吉岡町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第13 議案第 9号 吉岡町小口資金融資促進条例等の一部を改正する条例

- (提案・質疑・付託)
- 日程第14 議案第10号 吉岡町道路占用料・使用料徴収条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第15 議案第11号 群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議について
(提案・質疑・付託)
- 日程第16 議案第12号 町道路線の認定・廃止について
(提案・質疑・付託)
- 日程第17 議案第13号 吉岡町都市計画マスタープランについて
(提案・質疑・付託)
- 日程第18 議案第14号 平成27年度吉岡町一般会計補正予算(第4号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第19 議案第15号 平成27年度吉岡町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第20 議案第16号 平成27年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第21 議案第17号 平成27年度吉岡町農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第22 議案第18号 平成27年度吉岡町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第1号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第23 議案第19号 平成27年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第24 議案第20号 平成27年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)
(提案・質疑)
- 日程第25 議案第21号 平成27年度吉岡町水道事業会計補正予算(第3号)
(提案・質疑・付託)
- 日程第26 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について
(提案・質疑・付託)
- 日程第27 陳情第1号 軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口の設置を求める陳情
(提案・質疑・付託)
- 日程第28 町長施政方針
-

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

議 長（岸 祐次君） 皆さん、おはようございます。

本日、平成28年第1回吉岡町議会定例会が始まります。

開会に先立ち、石関町長から発言の申し入れがありましたので、これを許可します。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 皆さん、おはようございます。

平成28年第1回吉岡町議会定例会の開会に当たりまして、挨拶を申し上げます。

梅の花も咲き、ようやくどこか春らしさを感じられる季節となりました。春はもうそこまで来ているのかなということではありますが、まだまだ朝晩冷え込むようでもあります。

さて本日、平成28年第1回定例議会が議員各位の出席のもと開会できましたことに、心より感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、一昨年より大きな自然災害が少なかったようにも思われます。

しかし、忘れてはならないのは、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故であります。あれから5年がたとうとしておりますが、津波による被害からの復興・復旧、汚染水、汚染土壌の中間貯蔵処理などの大きな問題が残されており、一刻も早い復興と、安心して暮らせる社会を取り戻すことができることを待たれるところでもあります。

また、記憶に新しい9月の関東・東北豪雨災害がありました。茨城県常総市にはとても大きな被害の爪跡がまだ残っております。亡くなられた方々に哀悼の誠をささげます。犠牲者並びに大勢の被災者の皆様に、心からお見舞いを申し上げ、1日も早くもとの安定した生活が取り戻せるように、心よりお祈りを申し上げます。

被害が比較的少ないと言われている当吉岡町ですが、いつ何とき襲われるかわかりません。防災対策はもう一度確認し、いざという時のために備えておかなければならないと思っております。

また、世界各地で無差別テロなどの争いが起きていることを憂うものでありますが、特に子供たちが犠牲になる痛ましい事件が後を絶たないことは、大変残念な限りでもあります。

改めて平和のとうとさを痛感させられるところでもあります。それぞれが常日ごろから平和について意識していくことが大事ではないでしょうか。

平成28年度は、吉岡町第5次総合計画の後半の5カ年が始まります。計画の着実なる実施に向けて予算編成に当たっては、厳しい財政状況のもとにあることは変わりはありませんが、限られた財源の中でいかに最大の効果を生み出すかが、課題でもあります。

地方創生における総合戦略、また総合計画を基本構想に踏まえたところの後期基本計画

の達成を目指して、各行政分野の一層の充実を図っていききたいとも考えております。

一方、まちづくりの基本方針である「町民と行政の協働のまちづくり」に、さらに一歩踏み込み、自助・共助の社会の形成にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

今まで以上に、自治会を初め地元地域住民、ボランティア、またサークルなど幅広く皆さんの協力を得ながら、協働のまちづくりを推進していきたいと考えているところでもあります。

複雑多岐にわたる住民要望に対して、行政がやるべきこと、町民にできることは何か、改めて行財政運営の工夫に努力していく所存でもあります。

議員皆様には、特段のご配慮とご支援をお願い申し上げます。

さて、本定例会では、平成28年度の一般会計並びに特別会計当初予算を初めとする議案30件、並びに報告2件、諮問1件を上程させていただきました。何とぞ慎重審議の上、いずれも原案のとおり可決、承認をくださいますよう、よろしくお願いを申し上げます。

皆様方におかれましては、大変お忙しい中ではございますが、どうかよろしくお願いを申し上げます。開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。本日は大変お世話さまになります。

開会・開議

午前9時36分開会・開議

議長（岸 祐次君） ただいまの出席議員数は16名です。定足数に達していますので平成28年第1回吉岡町議会定例会を開会します。

これから、本日の会議を開きます。

諸般の報告

議長（岸 祐次君） 日程に先立ち、諸般の報告をいたします。

お手元に配付してある書面のとおり4項目の報告でございます。それをもって諸般の報告といたします。

議事日程第1号により、会議を進めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

議長（岸 祐次君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、議長において、11番岩崎信幸議員、12番平形 薫議員を指名します。

日程第2 会期の決定

議長（岸 祐次君） 日程第2、会期の決定についてを議題とします。

会期の決定については、議会運営委員会に付託してあります。議会運営委員長より委員会報告を求めます。

小池議員。

〔議会運営委員長 小池春雄君登壇〕

議会運営委員長（小池春雄君） 報告します。

去る2月29日、9時半より、議員控え室におきまして、平成28年第1回吉岡町定例議会の会期について、議会運営委員会を開催いたしました。

会期の日程とありますけれども、会期は本日、3月2日より3月18日までとするものであります。協議に当たりましては、議員全員の出席、そして議長、町長、副町長、教育長、そして関係課長の出席のもと、行いました。

まず、2日、3日でありますけれども、これが町長の施政方針に関する演説と、3日目が質問であります。そして、3月9日、10日が一般質問を予定しております。

なお、詳細につきましてはお手元に配付のとおりでございますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 議会運営委員長の報告が終わりました。

お諮りします。

ただいまの委員長報告のとおり、会期は本日から3月18日までの17日間とします。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 異議なしと認めます。

よって、会期は本日から18日までの17日間と決定しました。会期日程はお手元に配付したとおりであります。

日程第3 報告第1号 損害賠償の額の決定及び和解の専決処分の報告について

議長（岸 祐次君） 日程第3、報告第1号 損害賠償の額の決定及び和解の専決処分の報告についてを議題とします。

石関町長より報告を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 報告申し上げます。

報告第1号 損害賠償の額の決定及び和解の専決処分の報告について。

本事案は、町道管理に起因する事故の損害賠償について、地方自治法第180条第1項の規定により別紙専決処分書のとおり専決処分をしたので、同条第2項の規定により報告をするものであります。

詳細につきましては、産業建設課長より説明をさせます。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 本事案につきましては、別紙専決処分書のとおり、損害賠償の額2,160円、損害賠償の相手方、住所・氏名とも記載のとおりであります。

事故の状況であります。平成27年6月28日夜、吉岡町大字大久保1620番地付近の町道におきまして、自宅敷地内への出入りの際、町道に敷設された砕石内の異物により、車両後方右側のタイヤを破損したものでございます。

このたび、町と損害賠償の相手との当事者間で示談が成立し、和解となりましたので、ここに報告をするものであります。

示談の内容につきましては、町が損害賠償の相手方に2,160円を支払う義務があることを認め、これを相手方の指定する口座に支払い、当事者間には一切の債権、債務関係はないことを確認しました。

なお、損害賠償金額2,160円は、町が加入しております全国市町村総合賠償保険から支払われております。

以上です。よろしくお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 報告が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認めます。

本件は報告でございますので、これにて終結いたします。

日程第4 報告第2号 平成27年度吉岡町社会体育館改修工事請負契約の変更に関する専決処分の報告について

議長（岸 祐次君） 日程第4、報告第2号 平成27年度吉岡町社会体育館改修工事請負契約の変更に関する専決処分の報告についてを議題といたします。

報告を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 報告申し上げます。

報告第2号 平成27年度吉岡町社会体育館改修工事請負契約の変更に関する専決処分
の報告について説明を申し上げます。

地方自治法第180条第1項の規定により別紙専決処分書のとおり専決処分をしたので、
同条第2項の規定により報告をするものであります。

詳細につきましては、教育委員会事務局長より説明させていただきますので、よろしくお願いを申
し上げます。

議 長(岸 祐次君) 南雲教育委員会事務局長。

[教育委員会事務局長 南雲尚雄君発言]

教育委員会事務局長(南雲尚雄君) それでは、報告第2号についてご説明申し上げます。

吉岡町社会体育館改修工事は、当初請負金額1億6,632万円、工期、平成27年7
月14日から平成28年2月29日、請負業者、池下工業株式会社により準備工を経て、
平成27年9月1日より本格的に工事着手いたしました。

工事はおかげさまで計画どおり進みましたが、10項目について軽微な変更が生じまし
たので、変更契約を専決処分させていただきました。

変更請負金額1億6,682万7,600円で、当初請負金額に50万7,600円が
増加となったものでございます。工期の変更等はございません。

増額の50万7,600円の主なものは、体育器具工事になっております。

耐震型天井張りバスケットボールリングを支える天井のはり鉄骨が耐震型に対応してい
なかったことが新たに確認されましたので、はりを補強しました。耐震型とは、天井部2
列で計16個のとめ金でアームの部分とワイヤーの部分で固定していますが、通常6個で
支えております残り10個が揺れ・落下防止のための器具となっております。そのため、
従来の鉄骨にとめ金を設置することができませんので、新たにとめ金がつく場所を補強し
た変更となっております。

以上、説明とさせていただきます。

議 長(岸 祐次君) 報告が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

小池議員。

[15番 小池春雄君発言]

15番(小池春雄君) まずお伺いしますけれども、その最初の設計の段階でそうっていなかつ
たということなのですからけれども、これは当初設計では見られなかったという、その理由は、
その間にその安全基準等が変わったということではないのではないかと思うのですけれど
も、当初見込めなかったということは、どういうことだったのでしょうか。そして、だか
ら当然見込めないでここまで来たのですけれども、ちょっとその経緯が見えてこないの

すけれども。お願いします。

議長（岸 祐次君） 南雲教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 南雲尚雄君発言〕

教育委員会事務局長（南雲尚雄君） 当初設計の段階では、天井の部分に当然ボードが張ってあったり、あるいは天井のすぐ下に鉄骨があった関係で、足場を組んで初めて天井部の鉄骨を確認したところ、耐震型のフック等が、金具がつけられないような状況であった。要するにH鋼なんですね、はりの部分が。H鋼のサイズがどうしてもその耐震型にそぐわないということが新たに発見されましたので、今回増額という形で変更させていただきました。

議長（岸 祐次君） 小池議員。

〔15番 小池春雄君発言〕

15番（小池春雄君） 普通、設計という、大抵その辺を見て設計するものじゃないですか。後になってわかるって、聞いていて、その最初から、体育館ですから、そのことはもう予定されているわけですから、設計段階でわかるべきものがわからなかったというのがちょっと理解しにくいんですよ。そのための設計だと思うんですよ。もう一度ちょっと、私がかよって理解が足りないのかもしれないのですけれども、もう少し理解できる説明を。そのための設計だと思うんですよ。

議長（岸 祐次君） 南雲教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 南雲尚雄君発言〕

教育委員会事務局長（南雲尚雄君） 当初設計で見込まなければならない、要するにコンサル、当然設計屋さんも入れていますので、うちのほうはその辺は落ち度がないと解釈して事務を進めておりましたが、実際にはやはり一番、天井のすぐ下のはりの部分でありまして、設計の当時は見える範囲の中で想定した設計を組んでおります。しかし、実際に工事が進捗しまして、天井、軒下まで足場を組んで確認をしたところ、それが新たにわかったということでしたので、設計上、不足があったということは確かでございます。

議長（岸 祐次君） 小池議員。

〔15番 小池春雄君発言〕

15番（小池春雄君） そういうことなのでありますと、これは設計の瑕疵じゃないのですか。というふうに思いますので、本来であれば、設計をしたところの瑕疵であれば、そちらの責任に私はなるような気がするのですけれども、もう一度確認をお願いします。

議長（岸 祐次君） 南雲教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 南雲尚雄君発言〕

教育委員会事務局長（南雲尚雄君） 設計のときに、当然コンサルの方々と現場等、立ち会いをいたしまして、設計の段取りを組んでいった経緯があります。その中で、やはり高所のところ

に関しては確認ができませんので、目視の中であくまでも進めていくということで、確認をさせていただきます。以上です。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。
岩崎議員。

〔11番 岩崎信幸君発言〕

11番（岩崎信幸君） 私も体育関係でいろいろと利用させてもらったものですから、きのうから使用できるということで、早速外見と中の柔道場、剣道場、そして体育館と見てまいりました。当初の話では、外装の塗装と内装の塗装等が一番メインという形で承ってございましたが、今回、今の説明を聞きますと、そこら辺が入っておりません。内装関係も見ましたら、内装の塗装関係も行ってございました。それで、私の感じとしては、柔道場、剣道場が少し変わったかなと思うぐらいでございますが、そこら辺の細かい変更された改築の関係の場所を細かく説明をお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 南雲教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 南雲尚雄君発言〕

教育委員会事務局長（南雲尚雄君） 当初の請負の内容に関しては、あくまでも老朽化が進んでいるところの改修がメインになっております。したがって、やはりメインというふうになりますと、体育館の内部の改修工事でありまして、剣道場、柔道場、それから更衣室等の改修になっております。そのほかに、以前お話もありましたが、トイレの改修も含めて行わせていただいたということでありまして、そういったことを含めまして、先ほども申し上げましたが、軽微な変更として10項目ほどあります。そのトータルとして50万7,600円の変更増というふうになっております。

議長（岸 祐次君） ほかにございますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認めます。

本件は報告でございますので、これにて終結いたします。

日程第5 議案第1号 吉岡町行政不服審査会条例の制定

議長（岸 祐次君） 日程第5、議案第1号 吉岡町行政不服審査会条例の制定を議題とします。
提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第1号 吉岡町行政不服審査会条例の制定についての提案説明を申し上げます。

本条例は、行政不服審査法が全部改正され、同法第81条において、地方公共団体ごとに行政庁の裁決の判断の妥当性をチェックする第三者機関の設置が義務づけられることになったため、制定するものであります。

なお、詳細につきましては、総務政策課長をして説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 小淵総務政策課長。

〔総務政策課長 小淵莊作君発言〕

総務政策課長（小淵莊作君） それでは、説明させていただきます。

行政処分に関し国民が行政長に対し、不服を申し立てる制度について、公平性の向上、また使いやすさの向上、国民の救済手段の充実・拡大の観点から、行政不服審査法が制定後50年ぶりに抜本的な見直しを行い、法律の全部を改正するものとなりました。本町においてこれに応じた体制を整備する必要があります。

改正後の規定によりまして、地方公共団体ごとに行政庁の不服申し立てに対する裁決の妥当性をチェックする第三者機関の設置が義務づけられました。

本条例は、行政不服審査法第81条第2項の規定に基づきまして、不服申し立てに係る事件ごとに設置する行政不服審査会の組織及び運営その他必要な事項について定めるため、制定するものでございます。

また、第三者機関は、町長の附属機関として設置することとなるため、行政不服審査会委員の報酬額等の規定を追加する「吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例」の一部改正もあわせて行うものでございます。

それでは、議案書の1ページをごらんいただきたいと思います。

第1条では、審査会の設置について、不服申し立てに係る事件ごとに吉岡町行政不服審査会を設置する事項を定めるものでございます。

第2条では、審査会の所掌事務について、行政不服審査法の規定により、その権限に属させられた事項を処理することを定めるものでございます。

第3条では、審査会の委員は、5人以内をもって組織することを定めるものでございます。

第4条では、審査会の委員の委嘱事項、任期、解任事由について定めるものでございます。

第5条では、審査会の委員の守秘義務について定めるものでございます。

第6条では、審査会の会長の選任方法、会議の議長、会長の職務代理について定めるものでございます。

第7条では、審査会の庶務について定めるものでございます。

第8条では、委任事項について本条に定めるもののほか、必要な事項は審査会に諮ることを定めるものでございます。

第9条においては、第5条の守秘義務規定に違反して秘密を漏らした委員に対しての罰則を定めるものでございます。

附則の第1項では、この条例の施行期日を定めており、行政不服審査法の施行の日である平成28年4月1日から施行となるものでございます。

2ページをごらんいただきたいと思います。

附則の第2項では、審査会の委員は、非常勤特別職の職員となることから、「吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例」別表の役職名「行政不服審査会委員」、報酬額「日額8,800円」をそれぞれ加えるため、同条例の一部改正を行うものでございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

議 長(岸 祐次君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

平形議員。

[12番 平形 薫君発言]

12番(平形 薫君) 第4条のところで聞きたいのですけれども、公正な判断をすることができ、これは当然のことだと思えるのですけれども、「かつ、法律若しくは条例又は行政に関して優れた識見を有する者」とあるのですけれども、その者というのは、もう少し具体的には、どのような方が、町長が委嘱するのか。

それと、5人に対して委嘱されるわけなのですけれども、これが決まった場合、どのように町民といいますか、公表するのか。言葉を変えて言えば、町民がどういう方、どんな方がなったのかなというときに、どういうふうな方法でそれを確認することができるのか、教えていただきたい。

議 長(岸 祐次君) 小渕総務政策課長。

[総務政策課長 小渕莊作君発言]

総務政策課長(小渕莊作君) まず、1点目、4条の「法律若しくは条例又は行政に関して優れた識見を有する者」がどういう者か、具体的にというお話でしたけれども、当然法律に詳しいということになりますと、弁護士の方が想定されるということかなと思いますし、また不服申し立て、この制度ができたときに、それを使ってされる、その行政処分に対しての内容について詳しい方ということになるのかなと思いますけれども、例えば税の関係とか、また福祉関係等、そういった問題について、分野について処分があった場合に、この制度を利用される方が、大きな、市においてはそういったことが見受けられるということでご

ざいますので、当然税に詳しい税理士の方だとか、また福祉関係の分野で選んでみたいというふうに考えております。

また、公表の方法等、公表についてということですが、公表する場合、当然ホームページ等が一番早いのかなというふうに。広報等、周知する場合というのは、やはり時間もかかりますので、公表するのであれば、そういったホームページを利用するということは考えております。

以上でございます。

議長（岸 祐次君） 平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

12番（平形 薫君） わかりました。それで、第4条に、そういった5人の方を町長が委嘱すると書いてあるわけなんです。私が聞きたいのは、これから議案第3号等で固定資産評価委員とか出てきますけれども、その方のこの選び方というのは、識見を有する者のうちから議会の同意を得て町長が委嘱すると書いてあるわけなんです。これにはないんですね。それで、これは地方公共団体が法律に基づいて、不服審査法に基づいて設置する審査会でございます。

じゃあ国は一体どうやってやっているのだろうというふうにちょっと見ましたところ、国は、第5章第1節、行政不服審査会のところで、委員の第69条に規定しておるわけなんですけれども、「委員は、審査会の権限に属する事項に関し公正な判断をすることができ、かつ、法律又は行政に関して優れた識見を有する者のうちから、両議院の同意を得て、総務大臣が任命する」と、こう書いてあるわけなんです。国会ですから閉会中のこともあるんですけれども、その点に関しては、国会の閉会または衆議院の解散のために両議院の同意を得ることができないと、そのときは総務大臣が前項の規定にかかわらず委員を任命することができるということなのなんですけれども、任命した後の最短、最初の国会で、両議院の事後の承認を得なければいけない。この場において承認が得られないときは、総務大臣またはその委員を罷免しなければいけないと、結構きついいいますか、書いてあるわけなんです。

国はこの行政不服審査法が作動する機会が結構あるかなというふうに思うんですけれども、地方公共団体、我が町においてはもうほとんどこれを審議するという事はないかなというふうに思うんです。しかしながら、やはりこの行政庁の違法または不当な処分、その他の公権力の行使に当たる行為に関して、国民が簡易、迅速かつ、町民がですね、簡易、迅速かつ公正な手続のもとで広く行政に対して不服を申し立てることができる、このことを定めた法律であるわけです。

そういうことを考えると、国のこの定め方を考えたときには、やはりこの第4条のとこ

ろに、議会の同意を得て、あるいは議会の意見を徴してでも構わないのですけれども、何らかの形で議会を絡ませることがよろしいんじゃないかなというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） 平形議員から今、委嘱、第4条で町が、町長が委嘱するということに対して、議会の同意を得る必要があるんじゃないかという、国会、国の段階においては、先ほど行政不服審査法の第69条においてのお話がされましたけれども、この69条、国で行政不服審査委員会を設ける場合は、こういうことで委員を総務大臣が任命する場合にはそういったことだよということが書かれているわけですが、行政不服審査法の中で、地方公共団体に置かれる機関というのが第81条からあるわけですが、そしてその第81条、今回のこの本条例、議案第1号においては、81条の第2項において根拠にしているわけですが、81条の3項においては、手続においては国のその手続ののっとなってやりなさいということに書かれておまして、委員の任命については特に規定はされていないと。準用しなさいということは書かれてはおりません。

迅速に処理を、処分が行われた後のその審査をするという中においては、やはり今回のように一応こうして進めているというのがよろしいのかなというふうに考えて、こういうふうな国の法律にあるような、そういった手続を踏むということでは考えております。以上です。

議長（岸 祐次君） 平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

12番（平形 薫君） おっしゃるとおりで、規定、やりなさいとは書いていないですね。それで、この不服審査会、この条例、吉岡町の条例をつくるときに、これは想像で申しわけないのですけれども、多分全国町村会からの通知といたしますか、通達といたしますか、平成27年9月10日付で行政不服審査法の改正に伴う町村の対応についてという文書が役場のほうに来ているかなというふうに思うのです。

その中に、資料2の中に、行政不服審査会条例（例）として書いてあります。これを読みますと、吉岡町のこの条例、予定されている条例とかなり似通ったものなんですね。任期は定めていないとかとあるのですけれども、その第24ページの注意書きのところに、多くの地方公共団体が情報公開、個人情報保護審査会の委員の選任について、議会同意人事としていないことに照らし、委員の委嘱については議会同意人事としなかったと、この例がですね。しかしながら、本来、町長が任命できるよう審査会の委員は審査庁からの高度な独立性が要請されるため、議会同意人事とすることにより、民主的統制を及ぼすこと

も当然可能であると。なお、国が設置する行政不服審査会も国会同意人事である。先ほど言いましたが、これはもう書いてあるわけです。だから、やらなくちゃいけないとは書いていないのですけれども、この民主的統制を及ぼすことも当然可能であると書いてあるんですね。

今回この条例が出まして、識見を有する者のうちから議会の同意という文言が抜けて、町長が委嘱すると書いてあるのですけれども、この先ほど言いましたように、第3号のほうでは、固定資産評価審査委員、これは議会同意人事になっている。人権擁護委員なんかは意見を求めるというふうになっていますね。法律によってまちまちで、法律ですから重要度というのは比較できないと思うのですけれども、やはりこの、先ほども言いましたように、行政不服審査法の目的・趣旨からのとると、やはりこの辺は町としてもこの条例を定めるときによく検討なさって、やはりこの民主的統制がきくような格好で条例をつくるという姿勢が必要じゃないかなというふうに、特に今の世の中そういうことが求められている。昭和37年の行政不服審査法を今の世の中に見合ったように平成26年に大改正を行っているわけなんですよね。

その趣旨を鑑みれば、やはりこの町として、これはインターネットで見ますと、ほかの自治体は、特に町村は、ここのところが、識見を有する者のうちから町長が委嘱するところが多いんですね。だけれども、よく調べてみますと、ここに議会の同意を得てという文言を入れた市も幾つかあるわけです。これ、見ました。だから言いたいのですけれども、やはりもう少し民主的なその意見が取り入れられるように、基本的な条例はつくっておいたほうがいい。ほかの条例も照らし合わせる話なんですよ。思うのですけれども、いかがでしょうか。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） 議員のおっしゃることについては、言われる中で、固定資産、この後、第3号で議案として出しているわけですが、固定資産評価審査委員会につきましては常設の機関ということで、そういったことから議会に諮っているわけですが、今回のにつきましては常設ということではございません。その事件ごとにとということで対応させていただくと。というのは、先ほど少しお話がありましたけれども、吉岡町においても行政不服審査法というか、不服申し立てについては、私も役場に入って三十数年になりますけれども、ほかの方に聞いても、そういった事例は1度もないということがございます。そういったこともありまして、第81条の第2項を適用させていただいて、事件ごとにとということでさせておりますので、常設であれば、またそういったことも必要になるのかなというふうに思っていますけれども、事件ごとにとということでやります、させていただきます。

きますので、今回についてはそういった条項は、文言は盛り込まないということでございます。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。

坂田議員。

〔9番 坂田一広君発言〕

9番（坂田一広君） 私もこの人選についてちょっとお伺いしたいのですが、これ、吉岡町の場合は、81条の2項の規定に基づいて事件ごとに審査会を置くということですが、公平性あるいは迅速性というのを、何ていうのですか、この4条の、公正な判断をすることができ、かつ法律若しくは条例又は行政に関して優れた識見を有する者、5人集めるとするのは、迅速に可能なかどうか、ちょっとお伺いしたいのですが、よろしくお願ひします。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） 5人以内、必ずしも5人集めるかと言われると、また少し問題が、確かに迅速にそういった法律なり、また条例また行政に関して優れた識見を有するという事で前提をする場合に、5人必ずそろえるというのは少し、迅速に対応できるかと言われると、ちょっと難しいかなと。

他町村を見させていただいた中で、やはり3人以内、5人以内の、通常その事件を扱うのが3人の委員をお願いしているというのが通例かなというふうに考えております。そういったことから、法律、いわゆる弁護士の方、また税理士の方、また福祉分野に明るい専門家の方を選ぶと。また、その事件の内容によって多少違ってくるのかなというふうに考えておりますので、その都度その選定をしていきたいというふうに。5人集まらない場合は、当然3人でもできますので、3人ぐらいで審査をしていきたいと考えています。

議長（岸 祐次君） 坂田議員。

〔9番 坂田一広君発言〕

9番（坂田一広君） 公平性を担保して、なおかつ迅速な判断をしていくためには、やはりその相当専門的な知識を有する者がなければならないというようなことですが、先ほど総務課長の説明にもありましたけれども、吉岡町においては過去も例を見たことがないと、この行政不服審査をされた、それで私もちょっと調べてみましたところ、総務省のホームページだったと思いますけれども、平成26年の群馬県内の町村で行政不服審査が何件あったかという、たしか十数件だったような記憶があります。という、群馬県内の市町村でもこういった行政不服審査の手続というのは少ないのかなというふうにも感じます。

そんな中で、81条の第4項ですかね、共同設置の方向というのは考えられなかったのかどうか、お伺いしたいと存じます。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） 共同設置、全く考えなかったという、ちょっと無理があるかなというふうには、考えないわけではなかったわけなのですが、そこはしないということで。

議長（岸 祐次君） 坂田議員。

〔9番 坂田一広君発言〕

9番（坂田一広君） その考えなかった理由と申しましょうか、その辺を少しお聞かせいただけたらと思いますけれども。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） 特に理由というのは、考えなかったわけじゃないというのが、明確に共同設置をした場合、メリットとデメリットというか、そういったことも当然、そういうことからの観点から見たわけではございませんので、他町村も皆単独で設置するような話を聞いていましたので、共同設置は考えなかったということでございます。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑をします。

ただいま議題となっている議案第1号は、吉岡町議会会議規則第37条第1項の規定によって、総務常任委員会に付託します。

日程第6 議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定

議長（岸 祐次君） 日程第6、議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第2号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定につきまして提案理由の説明を申し上げます。

平成26年6月13日、不服申し立て制度を抜本的に改正する行政不服審査法が公布さ

れ、平成28年4月1日から施行されることになりました。

同法の施行に伴い、吉岡町の関係条例の一部をそれぞれ改正するものでございます。

詳細につきましては総務政策課長より説明させていただきますので、審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） まず、初めに今回の関係条例の改正に至った背景について説明をさせていただきます。

先ほども申しましたけれども、国民が行政庁の処分または不作為に対して不服を申し立てる制度につきまして、公平性と使いやすさの向上を目的としまして、現行の行政不服審査法が制定後50年ぶりに抜本的な見直しを行い、法律の全部を改正するものとなりました。全部改正されたことにより、新しい不服申し立て制度が構築されました。

主な改正点として、不服申し立ての種類の一元化、審理員制度の導入、また第三者機関として行政不服審査会、先ほどのですけれども、審査会等への諮問手続の導入、審査請求期間の延長などが挙げられます。

この整備条例は、改正法の施行に伴い、文言と法の改正内容と整合性を図るものでございます。吉岡町情報公開条例、吉岡町個人情報保護条例、吉岡町情報公開・個人情報保護審査会条例、吉岡町行政手続条例、吉岡町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例、吉岡町手数料条例のそれぞれの一部を改正するものでございます。

それでは、添付されております新旧対照表をもって説明させていただきます。今回関連する条例が、先ほど述べましたように6つございますので、新旧対照表も6つに分かれています。

最初に、第1条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。こちらは、吉岡町情報公開条例の一部改正でございます。

目次及び第三者の下線部分につきまして、改正に伴う文言の整備を行うものでございます。

次に、第18条の2は新設によるものでございます。改正された行政不服審査法第9条第1項ただし書きの規定によりまして、「条例に基づく処分について条例に特別の定めがある場合」は、審理員による審理手続が適用されないことから、開示決定等または開示請求に係る不作為の審査請求については、審理員の適用を除外する規定を追加するものでございます。

第19条につきましては、改正に伴う文言の整備を行い、第2項に情報公開・個人情報保護審査会に諮問する際には、審査請求に対し提出された弁明書の写しを添えてしなけれ

ばならない規定を追加するものでございます。

2ページをごらんいただきたいと思います。

第20条及び第21条につきましては、改正に伴う文言の整備を行うものでございます。

続きまして、第2条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。吉岡町個人情報保護条例の一部改正でございます。

目次及び第4章の下線部分につきまして、改正に伴う文言の整備を行うものでございます。

次に、第42条の2の新設によるものでございます。改正行政不服審査法第9条第1項ただし書きの規定によりまして、「条例に基づく処分について条例に特別の定めがある場合」は、審理員による審理手続が適用されないことから、開示決定等、訂正決定等もしくは利用停止決定等または開示請求、訂正請求もしくは利用停止請求に係る不作為の審査請求については、審理員の適用を除外する規定を追加するものでございます。

第43条につきましては、改正に伴う文言の整備を行い、第2項につきましては、次の2ページでございますけれども、第2項に情報公開・個人情報保護審査会に諮問する際には、審査請求に対し提出された弁明書の写しを添えてしなければならない規定を追加するものでございます。

続きまして、第44条及び第45条につきましては、改正に伴う文言の整備を行うものでございます。

続きまして、第3条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。吉岡町情報公開・個人情報保護審査会条例の一部改正でございます。

第5条中「不服申立人」を「審査請求人」に改めるものでございます。

続きまして、第4条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。吉岡町行政手続条例の一部改正でございます。

第3条及び第19条中、下線が付されている箇所を削除するものでございます。

続きまして、第5条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。吉岡町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正でございます。

第5条中「不服申し立て」を「審査請求」に改めるものでございます。

続きまして、第6条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。吉岡町手数料条例の一部を改正するものでございます。

現行の行政不服審査法では、審査請求人は、審査庁に対して処分庁等から提出された書類・物件等について、閲覧をすることは可能でございますけれども、写しの交付を受けることはできませんでした。

改正法では、審査請求人の手続保証を図るため、閲覧だけではなく、写しによる書面の

交付や電子ファイルによる交付も可能になりました。これらの交付による手数料の額等については条例で定めることとなっているため、手数料条例の一部を今回改正するものでございます。

それでは、新旧対照表をごらんいただきたいと思います。

第3条の見出し中、「免除」とあるものを「免除等」に改め、第3条各号に掲げる手数料を免除する事項は、行政不服審査法に係る交付の手数料については除外する規定を追加し、新設する第3条の2に行政不服審査法に係る手数料の免除等について規定するものでございます。

別表の改正につきましては、行政不服審査法に係る交付の手数料の額等についての規定を追加するものでございます。

続きまして、議案書をごらんいただきたいと思います。議案書の5ページをごらんいただきたいと思います。

附則でございますけれども、附則の第1項では、この条例の施行期日を定めており、行政不服審査法の施行の日である平成28年4月1日から施行となります。

附則第2項では、この条例の施行前にされた不服申し立てについては、この附則に特別の定めがある場合を除いて、従前の例によるものとするものでございます。

附則第3項では、この条例の施行の前日に、第2条の規定による改正前の吉岡町個人情報保護条例第6章の規定に違反した行為に対する罰則の適用については、従前の例によるものとするものでございます。

附則第4項では、第5条の規定による改正後の吉岡町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例第5条第2号の規定は、同条例第4条の規定による平成28年度分以降の業務の状況の報告について適用し、平成27年度分における業務の状況の報告については、従前の例によるものとするものでございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第2号は、総務常任委員会に付託します。

日程第7 議案第3号 吉岡町固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第7、議案第3号 吉岡町固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 本議案は、行政不服審査法の全部を改正する法律及び行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律の施行に伴い、吉岡町固定資産評価審査委員会条例について必要な改正をお願いするものであります。

詳細につきましては総務政策課長より説明させますので、ご審議の上、可決くださいませようお願い申し上げます。

議 長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総務政策課長（小渕莊作君） それでは、説明させていただきます。

平成26年6月、行政不服審査法関連3法、いわゆる行政不服審査法、行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律、行政手続法の一部を改正する法律が、行政不服審査法関連3法といいますけれども、が改正する法律が公布され、平成28年4月に同法が施行されます。

3法の1つ、行政不服審査法については制定後50年ぶりに、先ほども申し上げましたけれども、制定後50年ぶりに抜本的な見直しを行い、法律の全部を改正するものとなりました。

まず、吉岡町固定資産評価審査委員会条例が影響を受ける事項について説明させていただきます。

固定資産税の納税者が固定資産課税台帳に登録された価格に対して不服がある者は、地方税法の規定により審査の申し出を町の固定資産評価審査委員会に行うこととなります。そして、形式審査を行った後、固定資産評価審査委員会において、審査申し出について実質審査を行うわけですが、同委員会は、町長に対し弁明書の提出を求めます。さらに審査申出人から反論書の提出を求め、弁明と反論を繰り返し、審理を尽くすことになります。

現行の行政不服審査法では、不服申し立てに関して、処分庁、いわゆる町でいきますと固定資産税担当課から審査庁、審理を行う部署に提出された書類等について、閲覧をすることは可能でございますけれども、写しの交付を受けることはできませんでした。

改正される行政不服審査法では、これらの書類等について、閲覧だけではなく、写しの交付を求めることもできるようになります。さらに、その写しの交付を受ける者に対し、所定の手数料を納めることを義務づけています。

よって、手数料の額、徴収方法及び手数料の減免、その他の必要事項について条例で定

めることとなりました。これが、本条例改正の主な概要でございます。

それでは、具体的に新旧対照表をもって説明をさせていただきます。新旧対照表の1ページをごらんいただきたいと思います。

第4条は、審査の申し出でございます。

第2項第1号中「住所」の次に「又は居所」を加え、第1号の次に第2号審査の申し出に係る処分の内容を新設するものでございます。

旧の第2号から4号をそれぞれ第3号から5号に1号ずつ繰り下げるものでございます。

第3項中、先ほどと同様に「住所」の次に「又は居所」を加え、代表者の資格証明の引用規定を行政不服審査法から行政不服審査法施行令に改めます。これは、審査申出人が法人その他の団体等であるときの、代表者の資格証明を規定する根拠が、法律から法施行令に変わるためでございます。

第6項に審査申出人は、代表者もしくは管理人等の資格を失ったときは、書面で委員会に届け出る規定を新設するものでございます。

第6条は、書面審理でございます。

1ページから2ページでございますけれども、委員会は、書面審理を行う場合は、町長に対し、弁明書の提出を求めますが、第2項として、情報通信技術利用法に規定する電子情報処理組織を使用して弁明がされた場合でも、弁明書が提出されたものとみなすと、これを新設するものでございます。

これは、電子メール、いわゆるインターネットですね、電子メールを介して弁明がされた場合には、弁明書は提出されたものとみなすことをあらわします。旧の第2項の後段のただし書きを削除しまして、第3項として、旧の第3項を第4項とし、新の第5項として、委員会は、審査申出人から反論書の提出があったときは、これを町長に送付しなければならない、これを新設するものでございます。

新旧対照表の5ページをごらんいただきたいと思います。

旧の第10条から第14条をそれぞれ第12条から第16条に2条繰り下げまして、第10条に手数料の額等を、第11条に手数料の減免についての2条を新設するものでございます。

新旧対照表の2ページに戻っていただきまして、第10条、先ほど言いましたように、手数料の額等でございます。

第1項は、改正される行政不服審査法第38条第4項の規定によりまして、審査請求人または参加人が納付しなければならない手数料の額は、次の各号に掲げる交付の区分に応じて、当該各号に定める額とするものでございます。

2ページから3ページにかけてでございますけれども、第1号は、書面もしくは書類を

用紙の片方に白黒で複写したもの、または電磁的記録に記録された事項の白黒出力は、用紙1枚につき10円、カラーは50円とするもので、また両面複写または出力については、片面を1枚として手数料の額を算定するものでございます。

第2号、3ページでございますけれども、第2号は、電子メールを介した資料を用紙の片面に複写または出力については、用紙1枚につき10円とするものでございます。

第2項は、手数料の徴収方法でございます。

手数料は、委員会が定める書面に収入証紙を張って納付しなければならないと規定するものでございます。

ただし書きの第1号ですけれども、第1号は、手数料の納付が収入証紙によることが適当でない審査申し出として委員会がその範囲と納付方法を公示した場合において、公示された方法により手数料を納付する場合。

3ページから4ページにかけてでございますけれども、第2号は、手数料を現金で納付することが可能である旨を委員会が公示した場合。

第3号は、電子メールを介して交付を求める場合においては、固定資産評価審査委員会規則で定める方法により、手数料を納付する場合を規定しているものでございます。

第11条は、手数料の減免についてでございます。

第1項では、委員会は、資料等の交付を受ける審査申出人が経済的困難により手数料を納付する資力がないと認めるときは、1件につき2,000円を限度として、減額・免除できるものでございます。

第2項では、第1項により減額・免除を受けようとする審査申出人は、その理由を記載した書面を委員会に提出するものでございます。

第3項は、4ページから5ページでございますけれども、第3項では、審査申出人が生活保護法による扶助を受けている場合は、扶助を受けていることを証明する書面を添付すること等を規定しているものでございます。

新の第13条、決定書の作成でございますけれども、第1項で、審査を決定する場合に、決定書に記載する具体的事項を第1号から第4号で新設しております。

議案書2ページに戻っていただきまして、附則の第1項、施行期日でございますが、平成28年4月1日から施行するものでございます。

以上、補足説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第3号は、総務常任委員会に付託します。

ここで休憩をとります。再開を10時55分といたします。

午前10時39分休憩

午前10時55分再開

議長（岸 祐次君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

日程第8 議案第4号 吉岡町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第8、議案第4号 吉岡町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 本議案は、去る8月6日、人事院が一般職の国家公務員の給与改定及び給与制度の総合的見直しについての勧告をしました。

これを受け政府は、8月7日に人事院勧告どおりの本年度の国家公務員一般職の月給及び勤勉手当の引き上げを閣議決定をいたしました。

地方公共団体においては、人事院の給与に関する勧告及び報告を踏まえ、地域における民間企業等の状況を勘案して適切に対処することとの、地方公務員法の第59条及び地方自治法第245条の4に基づく技術的助言が国、県から示されました。

吉岡町においても、職員の給与に関する条例の一部を改正するのお願いをします。

詳細につきましては総務政策課長より説明させますので、ご審議の上、可決くださいませう、よろしくお願いを申し上げます。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕 莊作君発言〕

総務政策課長（小渕 莊作君） まず、議案書の1ページをごらんいただきたいと思えます。

第1条は、職員の給料月額及び勤勉手当の率の改定でございます。勤勉手当の率を0.1カ月引き上げるため、平成27年12月期の勤勉手当の支給月数の改定と給与条例附則第21項の減額対象職員の減額調整率の改定、また議案書1ページ中段から5ページ下段まで、第3条関係、吉岡町職員給料表（別表）の改定を行うものでございます。給料月額の平均で0.3%の引き上げとなります。

なお、別表につきましては、平成27年4月1日から遡及適用される給料表でございま

す。

それでは、新旧対照表で説明させていただきます。

まず、第1条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。左半分が改正案、右半分が現行となっております。下線部を改めるものでございます。第21条第2項勤勉手当の支給についてでございますけれども、第1号は、再任用以外の職員、いわゆる一般職員に対して、100分の75から100分の85に、また特定幹部職員にあつては、100分の95から100分の105に引き上げるものでございます。

第2号は、再任用職員についてでございます。100分の35から100分の40に、特定幹部職員にあつては、100分の45から100分の50に引き上げるものでございます。なお、現在は再任用職員はおりません。

新旧対照表の2ページをごらんいただきたいと思います。

附則第21項は、特定職員に対する減額調整率を100分の1.125から100分の1.275に、特定幹部職員にあつては、100分の1.425から100分の1.575に改めるものでございます。

また、同項の下から5行目「勤勉手当減額基礎額」の次からの下線部分は、1ページ、第21条第2項第1号の改定と同じでございます。

勤勉手当の支給率でございますけれども、期末・勤勉手当が官民給与の較差から見ると、民間の支給割合が4.21カ月に対しまして、公務員の支給月数は4.10カ月と0.11カ月の差があるとされております。これに伴いまして、年間一時金支給割合を0.1カ月改定するものでございます。

別表吉岡町職員給料表については、先ほども説明しましたけれども、平成27年4月1日からさかのぼって適用する給料表でございます。給料月額はや平均で0.3%の引き上げになります。

今回の改正は、官民較差に基づく給与水準の改定で、月例給、俸給表を平均0.3%引き上げて、初任給及び若年層に重点を置いているものでございます。

新旧対照表の3ページから10ページの別表を見ていただきますと、1級で各号当たり引き上げ額が1,200円から3,500円、2級においては600円から2,500円、3級においては400円から2,500円、4級においては400円から1,600円、5級で400円から800円、6級で400円から800円となります。

この引き上げから見ますと、若年層を重点に置いて月例給の水準を引き上げていることがわかるかと思えます。

例えば、新旧対照表の4ページをごらんいただきたいと思いますが、4ページの中ほど下から5段目、1級25号でございますけれども、これは大卒初任給になりますけ

れども、現行では17万4,200円でございますけれども、改定後は17万6,700円で2,500円の引き上げ額となります。そのまま右にずれて見ていただいて、6級の25号では、現行37万2,700円で、改正後は37万3,300円と600円の引き上げ額となります。

議案書の5ページに戻っていただきまして、表の下でございますけれども、第2条の改正についてでございます。地方公務員法及び独立行政法人法の改正に伴う改定及び給料月額、勤勉手当の支給率の改定となるものでございます。

新旧対照表にて説明させていただきます。

第2条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思います。

先ほどの第1条による改正と同じく、左半分が改正案、右半分が現行となっております。下線部を改めるものでございます。

1ページ、第1条については、地方公務員法の改正に伴う条項ずれの改正でございます。

第3条につきましては、別表が別表第1となります。この別表は、吉岡町職員給料表のことでございますけれども、次の4条関係で別表第2として等級別基準職務表が新たに加わるための改定でございます。

等級別基準職務表につきましては、能力及び実績に基づく人事管理の徹底を図るため、給料表には職務の複雑、困難及び責任の度に基づく等級ごとに明確な給料額の幅を定めなければならないこととするとともに、その運用について、議会、審議会等を通じて地方公務員給与における職務給の原則を一層徹底させようという観点から、職員の職務を給料表の各等級に分類する際の具体的な基準となる等級別基準職務表を給与に関する条例で定めることと義務化されたものでございます。

第19条の2につきましては、管理職員特別勤務手当の改定でございます。臨時・緊急にやむを得ず行う平日の深夜勤務に対して新たに支給するための改定でございます。現在は、休日もしくは年末年始の休日等に出勤したときに手当が支給されることとなっております。これはあくまでも臨時・緊急にやむを得ずということがつきましますけれども、そういったことで支給されることとなっております。改定後は平日の午前0時から5時まで、朝の5時までの間に勤務した場合に6,500円を超えない範囲で支給されるというものでございます。

2ページ下段をごらんいただきたいと思います。

第20条の3第2項については、行政不服審査法の改正に伴う法律番号及び条項の改定となるものでございます。

3ページをごらんいただきたいと思います。

第21条の第1項は、勤勉手当についてでございます。平成28年4月1日から施行さ

れます人事評価制度により人事評価結果の勤勉手当へ反映させるための改定でございます。

第2項の第1号につきましては、再任用職員以外の職員の勤勉手当の支給率の引き上げを行うための平成28年度以降の勤勉手当の支給月数の改定でございます。先ほどの第1条の改正の中で、12月に0.1カ月分引き上げた分を平成28年度以降の6月と12月にそれぞれ0.05カ月に振り分けるものでございます。

第2号につきましては、再任用職員についての勤勉手当の支給率の改定でございます。第1号と同様にして、12月に0.05カ月引き上げた分を28年度の6月と12月に0.025カ月に振り分けるものでございます。

4ページをごらんいただきたいと思います。

第22条については、地方公務員法の改正による勤務評定制度の削除に伴う改定でございます。

続きまして、附則第18項につきましては、55歳を超える職員に対する給与の支給に関する特例措置について、現行「当分の間」とある箇所につきまして「平成30年3月31日」までとするものでございます。

5ページをごらんいただきたいと思います。

附則の第21項についてでございますけれども、第1条による改正にもありました、減額調整率を12月に100分の0.15引き上げた分を平成28年度以降の6月と12月に100分の0.075ずつ振り分けるものでございます。

その下の下線部分100分の80の箇所でございますけれども、3ページ、第21条第2項と同じく、勤勉手当の支給率の引き上げを行うための平成28年度以降の勤勉手当の支給月数の改定でございます。先ほどの第1条の改正で、12月に0.1カ月分引き上げた分を平成28年度以降の6月と12月に0.05月ずつ振り分けるものでございます。

次に、別表第1の吉岡町職員給料表でございます。新旧対照表5ページ下段から13ページ中段までのとおり改定するものでございます。

こちらは給与の総合的見直し後、いわゆる平成28年4月1日から適用される給料表となります。

給料月額を比較してみますと、1級については変更はございませんが、2級の途中より額が変更になっております。6ページ下段の2級13号のところをごらんいただきたいと思います。右側、旧の場合で21万1,300円から左側新、新しく21万1,100円でございます。200円の減となります。9ページをごらんいただきたいと思います。9ページ中段の60号のところをごらんいただきたいと思います。2級で5,100円の減、3級で5,900円の減、4級で6,700円、5級で7,100円の減、6級で1万7000円の減と、高齢層になるほど減額が大きくなります。

13ページをごらんいただきたいと思います。

中段に別表第2、先ほど1ページの第4条のところの説明させていただきました、等級別基準職務表でございます。

それでは、議案書に戻っていただきまして、10ページをごらんいただきたいと思いません。

表の下、附則についてでございますけれども、附則第1条の施行期日でございますが、第1条による改正については、平成27年4月1日と規定し、第2条及び附則第4条から第7条については、平成28年4月1日を施行期日とするものでございます。

附則第2条は、適用日前の異動者の号給調整でございます。

附則第3条は、第1条による改正に伴って、平成27年4月1日にさかのぼって適用される給料表により差額を支給する規定でございます。

11ページをごらんいただきたいと思います。

附則第4条は、切りかえ日、平成28年4月1日前の異動者の号給調整についてでございます。

附則第5条及び附則第6条は、給料の切りかえに伴う経過措置でございます。いわゆる現給保障のことで、この経過措置は平成30年3月31日までとするものでございます。

附則第7条は、一時差しとめ処分の取り消しの申し立てに係る経過措置でございます。

以上、補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

柴崎議員。

〔5番 柴崎徳一郎君発言〕

5番（柴崎徳一郎君） 本給料改定において、給料表の設定とされておりますけれども、この辺について、今は職員組合への打診等、その関与はされているのですか。あくまで人勸任せということで進められているのか、お願いします。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総合政策課長（小渕莊作君） 職員組合と協議を今しているのかどうかということでございますけれども、当然町としても職員組合と話し合いといたしますか、協議といたしますか、そういった形の場を設けております。

議長（岸 祐次君） 柴崎議員。

〔5番 柴崎徳一郎君発言〕

5番（柴崎徳一郎君） そうしますと、吉岡町は、職員の皆さんは全員が自治労加盟という形に

なっていると思いますけれども、ご承知のとおり、自治労、労働組合でございます。管理職の皆さんも、今も組合員として活動参加されているのでしょうか。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総合政策課長（小渕莊作君） 管理職は組合に参加しているか、活動しているかというご質問かと思っておりますけれども、管理職については、意味合い的には準組合員のような、そういう形で、組合費として、ある意味、組合に給料の中からそのパーセントに応じて納めているというか、払っているといいますか、そういう形にはなりますけれども、ただ、活動としては組合活動は参加はしておりません。

議長（岸 祐次君） 柴崎議員。

〔5番 柴崎徳一郎君発言〕

5番（柴崎徳一郎君） 以前にもちょっとお尋ねさせていただきましたと思うのですが、組合費を納めているということは、すなわちもう組合員という形になると思います。今後も脱会等は考えておられないのでしょうか。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総合政策課長（小渕莊作君） その点についてもまだ協議はしておりませんが、必要に応じてまたその点について協議をしていきたいとは思っております。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第4号は、総務常任委員会に付託します。

日程第9 議案第5号 特別職の職員の給与及び旅費支給条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第9、議案第5号 特別職の職員の給与及び旅費支給条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 説明を申し上げます。

本議案は、吉岡町職員の給与改定に準じて、特別職の期末手当の改定をお願いするものであります。

詳細につきましては、総務政策課長より説明させますので、ご審議の上、可決いただき

ますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

議 長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕莊作君発言〕

総合政策課長（小渕莊作君） それでは、説明させていただきます。

吉岡町職員の給与改定に準じまして、特別職の職員の期末手当を0.1カ月引き上げる改正をお願いするものでございます。

人事院勧告は、勤勉手当の引き上げを勧告しておりますけれども、元来、特別職、議員には勤勉手当はございません。

しかしながら、職員の勤勉手当を期末手当に置きかえ、職員と同様に改定するものでございます。

それでは、新旧対照表で説明をさせていただきます。新旧対照表をごらんいただきたいと思ひます。

最初に、第1条による改正でございますけれども、期末手当の支給率で、12月の期末手当の100分の212.5を100分の222.5に改正するものでございます。年間0.1カ月引き上げたものを昨年12月支給のみ支給するという形でございます。

第2条による改正でございますけれども、第2条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思ひます。

平成28年4月1日以降の期末手当の支給割合を0.1カ月分の引き上げ分をそれぞれ6月、12月の支給割合に0.05カ月振り分け、100分の197.5を100分の202.5に、100分の222.5を100分の217.5に改めるものでございます。

続きまして、附則第3条による改正の新旧対照表をごらんいただきたいと思ひます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律附則第2条第1項の規定により、教育長がなお従前の例により在職する場合においては、改正後の特別職給与条例を適用せず、改正前の特別職給与条例及び廃止された教育長の給与条例は、なおその効力を有するとありますので、旧吉岡町教育長の給与、勤務時間、その他の勤務条件に関する条例を適用するため、附則第3条、附則第4条による改正となります。

附則第3条、附則第4条の改正についての期末手当の引き上げ率については、第1条による改正及び第2条の改正と同じでございます。

附則の第2条及び附則の第5条の期末手当の内払いについてでございますけれども、平成27年4月1日にさかのぼって適用されるため、改正後の条例による内払いとみなし、差額を支給するものでございます。

以上、補足説明とします。どうぞよろしくお願ひいたします。

議 長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第5号は、総務常任委員会に付託します。

日程第10 議案第6号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第10、議案第6号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 議案第6号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例、説明申し上げます。

本議案は、吉岡町職員の給与改定に準じ、議会議員の期末手当を改定するものであります。

詳細につきましては、総務政策課長より説明させますので、ご審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 小渕総務政策課長。

〔総務政策課長 小渕 莊作君発言〕

総合政策課長（小渕 莊作君） それでは、説明させていただきます。

吉岡町職員の給与改定に準じて、特別職、教育長と同様に期末手当の改定を行うものでございます。

新旧対照表で説明させていただきます。新旧対照表をごらんいただきたいと思っております。

1ページをごらんください。

第1条による改正では、12月の期末手当を100分の212.5から100分の222.5に改正するものでございます。これは年間0.1カ月引き上げたものを昨年のみ12月の期末に支給するものでございます。

第2条による改正では、平成28年4月1日以降の期末手当の支給割合、年100分の10の引き上げ分をそれぞれ6月、12月の支給割合に100分の5ずつ振り分け、100分の197.5を100分の202.5に、100分の222.5を100分の217.5に改めるものでございます。

附則の第2条の期末手当の内払いについてでございますけれども、平成27年4月にさ

かのぼって適用されるため、改正前に支払われた期末手当については内払いとみなし、差額を支給するものでございます。

以上、補足説明といたします。どうぞよろしくお願いいいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第6号は、総務常任委員会に付託します。

日程第11 議案第7号 吉岡町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第11、議案第7号 吉岡町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 議案第7号 吉岡町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、提案理由を申し上げます。

本条例の改正は、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴い、所要の改正を行うものであります。

なお、詳細につきましては、健康福祉課長をして説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） 本条例の改正は、法令の一部を改正する地域密着型サービスである認知症対応型の通所サービスを実施する事業者に対し、事業者が協議会等を設置し、評価を受ける等の規定が加わったためのものでございます。

それでは、説明をさせていただきます。新旧対照表をごらんください。

第16条から第65条及び4ページの第87条から6ページの第149条までの条項の番号の改正につきましては、平成28年4月1日からの施行の介護保険法改正に伴い条項ずれが生じたものでございます。引用する内容については変わるものではありません。

3ページをお願いいたします。

第78条の「地域との連携等」の第2項の次に2項加え、第3項としまして、指定認知

症対応型通所介護事業者に対し、同サービスの提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表、町の職員または地域包括支援センターの職員等により構成される協議会、いわゆる運営推進会議を設置し、おおむね6カ月に1回以上、運営推進会議に対して本通所介護の活動状況の報告をし、評価を受けるとともに、要望や助言等を聞く機会を設けることとするものでございます。

第4項につきましては、第3項で規定する報告、評価、要望、助言等についての記録を作成し、公表するものでございます。

4ページをお願いいたします。

第79条の「記録の整理」の第2項に1号を加え、第6号とし、第78条第4項で規定した「記録」を加え、5年間保存することとするものでございます。

議案書のほうを見開きください。

附則としまして、「この条例は、平成28年4月1日から施行する。」でございます。

以上、説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第7号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第12 議案第8号 吉岡町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第12、議案第8号 吉岡町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 議案第8号 吉岡町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例について提案理由を申し上げます。

本条例の改正は、議案第7号と同様に指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴い、所要の改正を行うものでございます。

なお、詳細につきましては健康福祉課長をして説明させますので、審議の上、可決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） 本条例の改正は、議案第7号と同様に、法令の一部改正により地域密着型サービスである認知症対応型の介護予防通所サービスを実施する事業者に対して、事業者が協議会等を設置し、評価を受ける等の規定が加わったためのものでございます。

それでは、説明をさせていただきます。新旧対照表をごらんください。

第9条の条項の番号の改正につきましては、平成28年4月1日施行の介護保険法改正に伴い条項ずれするもので、引用する内容が変わるものではございません。

2ページをお願いいたします。

第39条の「地域との連携等」の第2項の次に2項加え、第3項につきましては、指定介護予防認知症対応型通所介護事業者に対し、同サービスの提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表、町の職員または地域包括支援センターの職員等により構成される協議会、いわゆる運営推進会議を設置し、おおむね6カ月に1回以上、運営推進会議に対し本通所介護の活動状況を報告し、評価を受けるとともに、要望や助言等を聞く機会を設けることとするものでございます。

第4項につきましては、第3項で規定する報告、評価、要望、助言等についての記録を作成し、公表することとするものでございます。

第40条の「記録の整理」の第2項に1号を加え、第6号とし、第39条第4項で規定した「記録」を加え、5年間保存するものでございます。

議案書のほうを見開きください。

附則として、「この条例は、平成28年4月1日から施行する。」であります。

以上、説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

小池議員。

〔15番 小池春雄君発言〕

15番（小池春雄君） 介護予防認知症対策の対応型通所介護について、あと運営推進会議という場を設置しということなのですが、これはどのような方が、何人規模ぐらいになるのでしょうか。

議長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） この関係の施設につきましては、既に町内には認知症のグループホームが2事業所ございます。その事業所が通所のサービスのほうも実施することになります。

た。これにつきましての対象ということで、吉岡町にも2事業所があり、それが対象ということになります。既にこの認知症のグループホームにつきましては、運営推進会議等が設置されておりまして、この認知症グループホームにつきましては、おおむね2カ月に1回開催するというようになっております。ですので、既にこれは開催がされておるわけですが、今回、通所のほうにつきましては、おおむね6カ月に1回ということですので、この2カ月に1回実施している、この間の中で開催されるものと思っております。

ただ、このサービスが異なるものでございますので、別の委員構成をしていただいで開催していただくということになろうかと思えます。既にこれが認知症のグループホームが行っている場合につきましての代案につきましては、自治会長さん、それと地元の民生委員さん、それと町の職員、それと利用者のご家族、それと地域包括支援センターの職員等がこの委員になって運営会議のほうに参加している状況でございます。それと同じような方法で開かれるというふうに思っております。以上です。

議 長（岸 祐次君） 小池議員。

〔15番 小池春雄君発言〕

15番（小池春雄君） 今言われたように自治会長も加わるということなのですが、その中でその推進会議ですから、それなりの一定の知識ですよね。いろんな条件もあるでしょうけれども、ないとなかなかその会議についていけないという部分があるのですけれども、その人なら相当なのでしょうけれども、そこについてはどうなのでしょうかね、それぞれやはりいろんな方がおりますけれども、その中で仮に自治会長さんが入ってくると、その中で、その推進会議の中で自治会長がその果たさなければならぬ役割、そして少なくともこの程度の知見は持っていてほしいというようなものはあるかと思うんですよね。いや、何でも、全くわからないけれども、まあ、俺充て職で行ってくるという、これも困ったものだと思いますので、その辺はこの運営推進会議の中では、自治会長さんが大変でしょうけれども、その心構えというんですかね、位置づけというのでしょうか、このくらいは知識として持っていたいということでない、簡単にその充て職というのは難しいと思いますので、その辺の要件というんですかね、今後そういう人たちとどのようにしていくのかについてお尋ねします。

議 長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） この法令によりまして定められておりますので、この中には、先ほど申し上げたとおり、地域住民の代表者ということでございます。これは事業者のほうに委員構成をしていくものでございますので、これは事業者のほうに判断していただくという

ことになろうかと思いますが、やはり地域の代表というふうな形になってきますと、やはり地域密着型サービスということで、住みなれた地域で過ごすということをうたっております。そういった中で、地域の方々とも交流をしながら、施設のほうの利用をしていただくという観点から、地域住民の代表ということで規定されているわけですので、それにつきましてのご判断は事業者のほうにお任せしたいというふうに考えております。

議長（岸 祐次君） 小池議員。

〔15番 小池春雄君発言〕

15番（小池春雄君） 事業者のほうにお任せということなのですが、条例で定めて、その中に運営推進会議を設けて、その中に自治会長が加わるということであれば、ある程度のやはり、確かに事業所の判断かもしれませんが、自治会長に対して、予備知識として、こういうことですよということぐらいのその啓蒙というんですかね、そういうことを私は必要じゃないかと思うんですよね。ただ事業者が選ぶんだと、町は関与しないよと、聞いているとそんなふうにも聞こえるのですけれども、そうじゃなくてやはり条例で定めるわけですから、そしてそういう中で自治会長が入るということであれば、町にこういう制度ができて、そしてその皆さんの仕事はこういうことですよと、ぜひこういう心がけをお願いしますというようなことが相手に、自治会長に伝わるということが、私は大事ではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

議長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） 議員が申されるとおり、その会議委員となった自治会長さんにつきましては、そのようなお話をしていきたいというふうに考えております。以上です。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第8号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第13 議案第9号 吉岡町小口資金融資促進条例等の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第13、議案第9号 吉岡町小口資金融資促進条例等の一部を改正する条例を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 議案第9号 吉岡町小口資金融資促進条例等の一部を改正する条例について

て、提案理由の説明を申し上げます。

中小企業信用保険法の一部改正に伴い、吉岡町小口資金融資促進条例の同法を引用する部分を一部改正することにつきまして、地方自治法第96条第1項第1号の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

また、小口資金の融資期間延長の特例措置を平成28年度も継続するに当たり、群馬県小口資金融資促進制度要綱の改正が行われたことに伴い、吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例の一部を改正することについて、同様に議会の議決を求めるものでございます。

詳細につきましては、産業建設課長をして説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） それでは、改正の内容につきましては、附属資料の新旧対照表で説明をさせていただきます。右側が現行条例、左側が改正案でございます。下線が引かれていますところが、改正をお願いをするところでございます。

第1条による改正につきましては、定義、第2条第1号中「第4号の2まで」とあるのを「第5号まで、第7号及び第8号」に改め、「同法」とあるのを「保険法」に、「第5項」を「同条第5項」に改め、「性風俗関連特殊営業」の次に「第11項に規定する特殊遊興飲食店営業」を加え、「及び第11項」を「及び同条第13項」に改めるものでございます。

この内容につきましては、中小企業信用保険法第2条第1項及び第3項の改正にかかわる号のずれでございます。本条例第2条第1項中、中小企業者及び第2号の小規模企業者の定義規定におきまして、号ずれを反映させたものでございます。

また、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条に、新たに2項、2つの項目を加えたことにより、既存の11項が13項となり、第11項で「特定遊興飲食店営業」を新たに定義したことによりまして文言の追加でございます。

続きまして、同条の第2号を次のように改めたいものでございます。

第2号、小規模企業者、保険法第2条第3項第1号から第6号までに掲げるものであり、かつ吉岡町暴力団排除条例（平成24年吉岡町条例第15号）に基づく吉岡町事務事業からの暴力団排除に関する合意書第3条で定める排除対象者に該当しないものをいう、に改めるものでございます。

附則第1項としまして、附則の次に1項を加えるものです。

附則の第2項です。平成28年4月1日から当面の間、第4条の規定は適用せず、第5

号中「特別保証枠の範囲において、全て保証協会の保証に付するものとし、」とあるのを「全て保証協会の保証に付するものとし、」とするものでございます。

この内容につきましては、群馬県信用保証協会の保証は、条例第4条の規定によりまして出損金の60倍までとされていますが、保証債務の残高状況から、新たな出損が必要な状況であるため、当面の間、出損を休止することに伴い、制定当初の附則を改正することにより、当面の間、第4条を適用しないとするものでございます。

続きまして、第2条による改正につきまして説明をさせていただきます。

県では、小口資金の返済負担の軽減策としまして、平成27年度以前に融資実行された資金を対象として、群馬県小口資金融資促進制度要綱で定めた融資期間を最長で3年延長できるようにする特別措置を来年度も継続して実施することとして、制度要綱の改正が行われました。このことに伴いまして、吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例の一部を改正するものでございます。

新旧対照表によって説明をさせていただきます。右側が現行、左側が改正案でございます。

現行の附則第3項中、「平成28年3月31日」とあるのを「平成29年3月31日」に、附則第5項中、「平成26年度以前」を「平成27年度以前」に、また「平成27年4月1日から平成28年3月31日まで」を「平成28年4月1日から平成29年3月31日まで」に改めるものでございます。

議案書にお戻りください。

附則、「この条例は公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は当該各号に定める日から施行する。」ということで、第1号、第2条の規定につきましては、平成28年4月1日から施行、第2号の第1条中、第2条第1号の改正規定（「性風俗関連特殊営業」の次に「、同条第1項第11項に規定する特定遊興飲食店営業」を加える部分、及び「及び第11項」を「及び同条第13項」に改める部分に限る）につきましては、平成28年6月23日施行ということでございます。

よろしく願いをいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

小池議員。

〔15番 小池春雄君発言〕

15番（小池春雄君） 今説明のありました風営法の11項と13項というのがありますけれども、これはどういう促進でありますか。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 11項につきまして、13項ということで、11項に規定するという特殊遊興飲食店営業に関する規定でございますけれども、これにつきましては、ナイトクラブ、その他設備を設けて客に遊興をさせ、かつ客に飲食をさせる営業で、午前6時以降翌日の午前0時までの時間において営むもの以外のものをいうということでございます。その規定の新設が11から13ということになっております。加えております。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。
平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

12番（平形 薫君） 今の説明で、信用保証協会に対しての出損金とおっしゃったのですけれども、出損金というのは何ですか。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） これにつきましては、信用保証協会に対して町が出損金ということで保証をしております。第4条につきまして……出損金です。出損金の60倍までを保証するというので、町が保証協会に対して各市町村が出資をしております。それについて今回は、信用保証協会がその各市町村から預かっております出損金が余剰があると、余裕があるので、当分の間、それは市町村から求めませんということで、休止をすることということでございます。

議長（岸 祐次君） 平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

12番（平形 薫君） 出損金でよろしいわけですね。出損金ならば、今の答弁で理解できるのですけれども、出損金と言われると理解できなかつたものですから、あの質問です。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 訂正をさせていただきます。出損金です。よろしく申し上げます。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第9号は、産業建設常任委員会に付託します。

日程第14 議案第10号 吉岡町道路占用料・使用料徴収条例の一部を改正する条例

議長（岸 祐次君） 日程第14、議案第10号 吉岡町道路占用料・使用料徴収条例の一部を

改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第10号 吉岡町道路占用料・使用料徴収条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

道路法施行令の改正に伴い、所要の改正を行うものであります。

詳細につきましては、産業建設課長より説明させますので、審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 吉岡町道路占用料・使用料徴収条例の関係法令であります道路法施行令の一部が改正されましたことによりまして、道路占用料の額が改正をされました。これは占用料の額の算定の基礎となる民間における地価水準及び地価に対する賃料の水準の変動等を踏まえ、道路占用料を適切なものとするため、適宜見直しを行ったということでございます。

よって、吉岡町道路占用料・使用料徴収条例におきましても、現状の適正化を図るため見直しを行い、あわせて所要の改正を行うため提案させていただきました。

改正の内容につきましては、附属資料の新旧対照表で説明をさせていただきたいと思っております。右側が現行条例、左側が改正案でございます。下線が引かれているところが、今回改正をお願いするところでございます。

1ページをごらんください。

現行第2条中、第2項第1号につきまして、「占用（使用）期間が1カ月に満たないときは15日までを半月分とし、15日を超えるときは1カ月分とする。」とあるのを「専用（使用）期間が1カ月に満たないときは、1カ月として計算をする。」に改めるものでございます。

また、1ページから5ページまでにあります別表（第2条、第4条関係）ですけれども、法第32条第1項第1号に掲げる工作物、法第32条第1項第2号に掲げる物件、法第32条第1項第3号及び第4号に掲げる施設、法第32条第1項第5号に掲げる施設、法第32条第1項第6号に掲げる施設、道路法施行令第7条第1号に掲げる物件、令第7条第2号に掲げる工作物、令第7条第4号に掲げる工事用施設及び同条第5号に掲げる工事用材料、令第7条第6号に掲げる仮設建築物及び同条第7号に掲げる施設について

て、それぞれ項目があるわけですが、この現行占用料の金額を改正案の金額に改めるものでございます。

続いて、6ページをお開きください。

備考の2になります。第3条以下の電線の次に、「(当該電話柱を設置する者が設置するものに限る。以下この号において同じ。)」を追加し、備考5において、近傍類似の土地の次から「近傍に類似の」の前までと、類似した他土地の「他」を削除し、「類似した土地」とするものでございます。備考6につきましては、全文削除でございます。

議案にお戻りください。

附則、「この条例は平成28年4月1日から施行する。」でございます。

よろしく願いをいたします。

議長(岸 祐次君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

平形議員。

[12番 平形 薫君発言]

12番(平形 薫君) 占用料の金額が下がっているのと、それから上がっているものとあるわけなので、この道路法ですかね、これがよくわからないので、下がっているものと上がっているものの、何ていうんですか、理由というんですかね、広告等とか上がっているというふうに思うのですけれども、そこら辺を平易に説明をお願いできますでしょうか。

議長(岸 祐次君) 富岡産業建設課長。

[産業建設課長 富岡輝明君発言]

産業建設課長(富岡輝明君) 吉岡町の道路占用料・使用料につきましては、群馬県の占用料・使用料に合わせてございます。それで、吉岡町は群馬県が定める1級、2級、3級から5級までありますけれども、3級の土地になっております。それですので、群馬県が定める3級の土地の使用料に合わせてあります。よろしく申し上げます。

議長(岸 祐次君) 平形議員。

[12番 平形 薫君発言]

12番(平形 薫君) もう一つ聞きたいのですけれども、この道路占用料の予算がこれから説明があると思うのですけれども、使用料として平成28年予算書には255万7,000円が計上されております。平成27年は予算書を見ますと、252万5,000円と書いてありますけれども、ほとんどイコールですね。これの平成28年の予算を計上したからには、この値上げの影響、あるいは値下げの影響というのを加味しての予算書と理解してよろしいのでしょうか。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 申しわけございません、今現在ここに資料を持ってきておりませんので、後で調査をしてお答えをいたします。

議長（岸 祐次君） 平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

12番（平形 薫君） 当然、予算・決算委員会の委員でございまして、推定ではこの議案第10号も平成28年の一般会計予算のほうで審議されると思いますので、その中でお聞きしたいというふうに考えておりますので、今この場での回答は結構だというふうに思います。

議長（岸 祐次君） ほかにありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第10号は、産業建設常任委員会に付託します。

ここで昼食休憩をとります。再開を午後1時といたします。

午後0時00分休憩

午後1時00分再開

議長（岸 祐次君） それでは、会議を再開します。

日程第15 議案第11号 群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議について

議長（岸 祐次君） 日程第15、議案第11号 群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 説明申し上げます。

本議案は、群馬東部水道企業団が新たに群馬県市町村総合事務組合の組織団体となり、群馬県市町村総合事務組合同規約別表第2の5の項の事務の共同処理を平成28年2月8日から適用して行うための規約変更であります。

よって、地方自治法第286条第1項の規定に基づき、組織団体間で協議の上定めることについて、同法第290条の規定により議会の議決を求めるものでございます。

よろしく審議の上、可決くださいますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第11号は、総務常任委員会に付託します。

日程第16 議案第12号 町道路線の認定・廃止について

議長（岸 祐次君） 日程第16、議案第12号 町道路線の認定・廃止についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 申し上げます。

議案第12号 町道路線の認定・廃止について、提案理由の説明を申し上げます。

道路法に基づき、町道の認定及び廃止により道路網の整備をするためのものがございます。

詳細につきましては、産業建設課長より説明させますので、審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） それでは、説明をさせていただきます。

新たに認定する路線の内訳ですが、開発行為により寄附を受けた6路線と、高崎渋川バイパスの副道2路線、駒寄スマートインターチェンジ建設に伴います現道の機能補償道路1路線の計9路線でございます。

町道路線認定調書の1ページ目をお開きください。

左より整理番号、路線番号、路線名とあります。整理番号は位置を示しており、路線番号下3桁は路線網図に表示をされております。

整理番号1から2番、築地6号線、築地7号線の2路線でございますが、これは小倉地区の高崎渋川バイパスの副道として新たに認定をする路線でございます。

2ページをごらんください。

整理番号3番、見城15号線でございます。場所につきましては、旧高崎渋川線の東武運輸西の開発地でございます。

3ページの整理番号4番、長山12号線、南下でございます。これは、場所につきましては、田中十字路西になりますけれども、団地内の道路、造成の中の道路でございます。

4ページをごらんください。

整理番号5番から8番、北原9号線、道城10号線、道城11号線でございます。北原9号線につきましては、関越道東になります。前橋伊香保線、県道の北になりますけれども、開発団地内の道路でございます。道城11号線につきましては、吉岡バイパス西になりますけれども、錦光堂南にあります開発地、造成しました団地内の道路でございます。十二地区11号線につきましては、十二地区の開発地の中の路線でございます。

この以上6路線につきましては、開発等に伴いまして寄附道路、寄附路線となります。

また、整理番号9番、七日市6号線につきましては、スマートインターチェンジの建設に伴いまして、西側、現道の機能補償道路として認定をする路線でございます。

続きまして、町道の廃止路線の内訳になります。廃止路線調書をお開きください。

認定路線と同様、整理番号は位置、路線番号の下3桁につきましては、路線網図に表示をさせていただきます。

廃止する路線は2路線でございます。

1ページ目でございますけれども、整理番号1番、乙舞台4号線でございます。これにつきましては、高崎渋川バイパス線沿いの西側になります。当該路線の地籍を調査をしましたところ、これは榛東地籍にある路線ということで、榛東村から協議がありまして、これが榛東村地籍であるということが判明したため、町道を廃止して榛東村道として認定をするものでございます。

2ページをごらんください。

整理番号2番、新田入口13号線、これにつきましては、場所につきましては、旧高崎、前橋伊香保線で午王頭川沿いにあります旧金谷ボデーさんがございました川を隔てた南に位置する場所でございます。当該路線につきましては、行きどまり道路でありまして、隣接する土地所有者、全体がその所有者の占有状態となっており、道路交通法の観点から認定路線とすることが好ましくないということでございますので、廃止をするということでございます。

今回の認定・廃止によりまして、更新後の路線数は1,615路線となります。

以上です。よろしくお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第12号は、産業建設常任委員会に付託します。

日程第17 議案第13号 吉岡町都市計画マスタープランについて

議長（岸 祐次君） 日程第17、議案第13号 吉岡町都市計画マスタープランについてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第13号 吉岡町都市計画マスタープランについて、提案理由の説明を申し上げます。

吉岡町都市計画マスタープランを改定するため、議会基本条例に基づき提案をするものであります。

都市計画は、その目的の実現には時間を要するものであるため、長期的な見通しを持って定められる必要があり、そのため都市計画マスタープランは、おおむね20年後の都市の姿を展望した上で、都市の将来像を明確にし、その実現に向けての大きな道筋を明らかにすることを目的に定めるものであります。

本町では平成13年3月に都市計画マスタープランを策定し、その計画に基づいてまちづくりを推進してきました。この間、幹線道路の整備が進んだことや、大久保地区に大規模な店舗が相次いで出店したこと、そして新たな住宅地が無秩序に広がることなど、町の状況が大きく変化をしました。

また、県の都市計画区域マスタープランや、町の第5次総合計画を初めとした関連計画の改定が行われることも考慮し、将来を見据えて都市計画マスタープランを改定するものであります。

詳細につきましては、産業建設課長をして説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） それでは、補足説明をさせていただきます。

本プランの構成につきましては、「はじめに」で、都市計画マスタープランの目的とプランの改定の背景などを説明しております。次に、第1章で、都市の現況と都市整備上の課題を、第2章で、都市の将来像を、第3章で、吉岡町まちづくりの構想の全体構想を、第4章で、地区別構想を、第5章で、「マスタープランの実現に向けて」として、

町の将来像、あるべき姿を展望した上で、その実現に向けての方向性を示すものとなっております。そして、最後に附属資料として改定の経緯等を掲載しております。

3ページをごらんください。

第1章、都市計画の現況と都市整備上の課題として、3ページから21ページまでにかきまして、吉岡町の現況を分析しております。また、22ページから24ページにおきましては、都市整備上の主要課題の把握を行っております。

25ページをごらんください。

第2章、都市の将来像につきまして、1. まちづくりの理念としまして、全国的な人口減少基調の中にあつて、本町の人口は増加基調にあります。そうした中で無秩序な開発を防ぎ、あらゆる世代が暮らしやすいまちづくりを進めていくために、本町の目指すまちづくりの理念を、「まとまり」をつくり、全ての世代が暮らしやすいまちへ、と設定をするものでございます。

26ページをごらんください。

都市構造のビジョンとしまして、(1) 吉岡町の強みの分析を行つて、これを生かすこととしました。5項目ございますが、まず、群馬県の中心に位置していることの強み、県内2大都市の中心部から15キロ圏内にあることの強み、広域的幹線道路のネットワークが形成されていることの強み、高速道路のインターチェンジが設置されていることの強み、JR東日本の鉄道が通っていることの強みでございます。

(2) 都市構造のビジョン、28ページをごらんください。目指すべき方向性として、その1つに、「2つの核」と「4つの軸」を最大限に生かすとしております。

また、29ページにつきまして、ビジョンとしまして、メリ張りをつけたまとまりのある土地利用への転換を図っていくんだということで、示してございます。

30ページをごらんください。

吉岡町まちづくり構想（全体構想）でございます。

1. 土地利用の方針を定めるに当たり、基本方針を、おおむね20年後の将来を見据え、町内を積極的に市街化を図るエリアと、市街化を抑制し、現在の環境を保全するエリアに区分し、メリ張りをつけるとともに、住宅地、商業地、工業地のあり方については、できる限りまとまりのある土地利用への転換を目指しますとしました。

(1) 住宅地のあり方として、住宅地の無秩序な拡大を防ぎ「まとまり」を形成するため、住宅誘導エリア、住宅許容エリア、住宅調整エリアの3つのエリアを設定をします。

1番目の住宅誘導エリアにつきましては、用途地域内とその東側に隣接する地区は、人口密度が高い状況にありますので、住宅誘導エリアと位置づけまして、「全ての世代が暮らしやすいまち」の中心として、市街地の無秩序な拡大や土地利用の混在を防ぎ、ま

とまりのある魅力的な住環境の形成を目指しますとしました。

②番の住宅許容エリアでは、住宅誘導エリア以外で幹線道路に沿う形で古くから住宅が集積しており、過去15年間の人口密度も増加しており、人口密度がヘクタール当たり20人を超えている地区について、住宅許容エリアと位置づけまして、今後も住宅のまとまりを維持していきたいと考えております。

3番の住宅調整エリアにつきましては、住宅誘導エリア、住宅許容エリア以外の区域でございますが、それを住宅調整エリアと位置づけまして、農地や自然環境との調和を図りながら、無秩序な住宅地の拡大を抑え、集落のまとまりを保つこととします、としております。

33ページをごらんください。

(2) 商業地のあり方として、示してございます。

①番、中心となる商業地については、多くの町民が日常的な買い物をする店舗が集積する前橋伊香保線、通称吉岡バイパス沿道の前橋市隣接地区を中心となる商業地と位置づけ、良好な商業集積地の形成を図るとともに、無秩序な乱開発の抑制をしていきたい。

2番、駒寄スマートインターチェンジを生かした商業誘致エリアとして、大型車が利用可能となる予定の駒寄スマートインターチェンジを企業誘致の核と考え、スマートインターチェンジ周辺においては、優良企業の誘致を積極的に進めていくエリアとします。このエリア周辺には、既にスーパーマーケット、ドラッグストア、回転ずしなどの店舗が立地をしており、商業地としてのまとまりが形成されつつあります。

したがって、このエリアは商業系の企業を誘致する「商業誘致エリア」と位置づけ、既存店舗と一体となった商業地のまとまりを形成していく方針とします。

35ページをごらんください。

(3) 工業地のあり方。

駒寄スマートインターチェンジを生かした工業誘致エリアとして、群馬県内における近年の工業団地への企業進出状況は、県央・東毛地域を中心として、インターチェンジから近い位置、あるいはインターチェンジにアクセスしやすい幹線道路沿いに立地する傾向がございます。

この傾向を踏まえますと、本町において大型車対応化を進めている駒寄スマートインターチェンジ周辺が、工業系企業の誘致先として最も潜在能力が高いと考えられます。

また、駒寄スマートインターチェンジの西側においては、前橋市が産業系土地利用を計画しており、これと一体的に工業系土地利用を図ることは、広域的な土地利用の観点からも望ましいと考えられます。

したがって、駒寄スマートインターチェンジの西側エリアを工業系の企業を誘致する

「工業誘致エリア」と位置づけます。

また、②の国道17号を生かした工業誘致エリアとして、渋川伊香保インターチェンジや、北関東方面へのアクセス性にすぐれる国道17号沿道においても、工業系土地利用を図るエリアとして適していると考えられます。

特に、国道17号の西側エリアにおいては、隣接する渋川市において、既に工業系の土地利用が図られております。これと一体的に工業系土地利用を図ることは、広域的な土地利用の観点からも望ましいと考えられます。

以上のことから、国道17号の西側を新たな「工業誘致エリア」と位置づけます。

37ページをごらんください。

(4) 幹線道路沿道の土地利用のあり方について。

幹線道路沿道エリアにつきましては、前橋伊香保線、通称吉岡バイパスでございますが、高崎渋川線バイパス、南新井前橋線バイパスの沿道は、商業地や工業地としての価値が高いため、今後大規模な店舗や工場、遊戯・風俗施設などの土地開発が進む可能性が高まっています。

これらの開発に対して、何の規制もしなければ、市街地の無秩序な拡大や土地利用の混在による住環境の悪化を招くおそれがあるため、その規模や種類に一定の規制を設けることが重要となります。

その上で、生活の利便性向上や、町の持続的発展に資する店舗、工場などの立地については、周辺環境との調和を十分配慮しつつ許容する方針とします。

39ページをごらんください。

(5) 農地・自然環境の保全について。

優良な農地の保全について。住宅需要の高い状況が続いています中で、飛び地的なミニ開発によって農地が虫食い状態に開発されてきた経緯がございます。今後は、都市的土地利用を図るエリアと、都市的土地利用を抑制するエリアとで、土地利用にメリハリをつけることが重要となります。

そのため、都市的土地利用を抑制するエリアにおいては、良好な営農環境や既存集落の生活環境を保全するため、優良農地の無秩序な開発を食いとめる方策を検討します、としております。

自然的環境の保全につきましては、自然環境は、水源涵養などの広域的な機能を持つだけでなく、町民の心の豊かさや、景観などの面においても貴重な財産と言えるものであるため、その保全に努めることとします。

40ページの(6)土地利用方針図をごらんください。

この土地利用方針図が、(1)の住宅地のあり方から(5)の農地・自然環境の保全ま

での、それぞれの土地利用のあり方を踏まえた、町全体の土地利用方針を示すものでございます。

次に、41ページからの都市施設の整備方針につきまして、説明をさせていただきます。

(1) 道路・公共交通につきましては、「まちづくりの核と軸」及び「幹線道路のネットワーク」を整備し、誰もが移動しやすい公共ネットワークを目指します、を基本方針としまして、道路の整備においては、「まちづくりの核」の整備では、駒寄スマートインターの大型車対応化の整備促進、骨格となる「まちづくりの軸」の整備では、国道17号、高崎渋川バイパス、前橋伊香保線（吉岡バイパス）、南新井前橋線バイパスにおいては、町の広域的な幹線でありますので、整備中・未整備路線については、早期の供用を目指し、整備を推進していきます。

幹線道路のネットワークの形成におきましては、「まちづくりの核」以外の幹線道路のネットワークを強化するため、幹線道路のネットワークが途切れている箇所については整備を推進します、とします。

狭隘な生活道路の拡幅と歩道整備につきましては、幅員4メートル未満の狭隘道路につきましては、優先度を総合的に勘案し、計画的な拡幅を図ってまいります。小学校の通学路で歩道が未整備の区間について、優先的に整備を促進します。

公共交通へのアクセス強化では、JR新駅を本町の中心部からアクセスする道路整備について、長期的視野に立って検討をします、としています。また、既存のJR八木原駅へ、本町中心部からアクセスする道路整備について、渋川市と連携し、長期的な視野に立って検討するとともに、JR群馬総社駅へのアクセス道路の整備についても、前橋市と連携を図ってまいりたいとします。

都市の変化や将来像を見据えた都市計画道路の見直しでは、都市計画決定後、長期間未着手となっている道路につきましては、都市の土地利用の変化やバイパスの開通に伴う流れの大きな転換などを考慮し、見直しを検討します、としております。

2番の公共交通の充実として、鉄道利用者の利便性向上については、当面はJR上越線の既存の駅の利便性向上のために、駅までの公共交通の充実や、駅周辺の整備等について検討していきたい。また、長期的課題として、「まちづくりの核」となるJR新駅の設置についても検討します、ということです。

バス利用者の利便性の向上につきましては、子供や高齢者などの交通弱者に考慮し、路線バス網と運行サービスの向上を関係機関に要望するとともに、バスターミナルやバス停留所の整備と車両のバリアフリー化を検討します、としております。

43ページの道路の整備方針図につきましては、都市施設の整備方針の道路の整備について説明を図化したものでございます。

44ページの(2)公園につきましては、周辺住民だけではなく、広域からの利用も想定した、一定規模以上の基幹的な公園と、それを補完する身近な公園を計画的に配置することで、町民が求める利用しやすい公園の整備を目指します、を基本方針としまして、基本的な公園の整備として、南下城山防災公園の整備、八幡山の公園の整備を図るとしています。また、午王頭川親水公園の整備を検討します、としております。

2、身近な公園の整備として、身近な公園の整備。住宅のまとまりを形成していく上で、身近な公園の適地を調査するとともに、優先的に整備を図る、としております。

自治会住民広場の整備。自治会のコミュニティー活動の拠点となる住民広場の整備促進を図っていきたいとしております。

公園の魅力化と維持管理の充実につきましては、遊具等の充実に努めるとしております。公園の維持管理の充実では、施設の適切な維持管理を行い、地域住民による維持管理についても検討するとしております。

46ページをごらんください。公園の整備方針図を示したものでございます。

続きまして、53ページをごらんください。これがまちづくり方針図として、図を右側、右のほうの凡例が土地利用の凡例でございます。左側につきましては、都市施設の凡例となっております。

続きまして、55ページをごらんください。

第4章、地区別構想の1、地区区分についてでございます。関越自動車道を境にしまして西側を地域1としまして、東側を地域2に設定をしました。地区別構想では第3章で行ってきました全体構想を地域1と2に分け、もう一度まとめ直したものでございます。

62ページをごらんください。地域1の地区の方針図をごらんください。

全体構想図と違うところをご説明します。凡例の右側、下から5番目のピンクの点の丸の観光交流ゾーンとして、小倉のブドウ郷、乾燥芋、野田宿、水沢街道、船尾滝周辺を載せてございます。また、構想路線としまして、上野原地区が一体化できる路線を青色の点線矢印で示しております。

69ページの地域2のまちづくり方針図をごらんください。

観光交流ゾーンとして、道の駅よしか温泉周辺を載せてございます。また都市計画道路「漆原総社線」の見直し的一端として、構想路線として青色の点線を示しております。

70ページをごらんください。

都市計画マスタープラン、このプランの実現に向けてでございます。

1. 「協働のまちづくり」の推進として、その実現に当たっては、行政だけでなく町民や事業者の協力が不可欠であり、町民、事業者、行政の各主体がそれぞれの役割のもと、連携しながら進めていく「協働のまちづくり」を目指します、としております。

71ページをごらんください。

適切な運行管理では、都市計画マスタープランではおおむね20年後の将来を見据えた長期的なまちづくりの指針となるため、まちづくりの進捗状況を把握し、効率的かつ効果的なまちづくりの推進を図る必要があるため、いわゆるこの図面で示しています「PDCAサイクル」を導入し、2年に1回程度、まちづくりの進捗状況を点検し、結果を都市計画審議会に報告するとともに必要に応じて本プランの見直しを行ってまいります。

また、都市計画マスタープランは計画期間が長期にわたることから、上位計画の見直しや社会情勢の変化などに応じて、適宜見直しを行ってまいりたいと考えております。

以上、吉岡町都市計画マスタープランについて、補足説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

柴崎議員。

〔5番 柴崎徳一郎君発言〕

5番（柴崎徳一郎君） 改定に向けての原案説明を受け、提示されたプランの内容について、表示されている現概要については、ある程度理解することはできましたが、それ以前のことを含め、少し質問させていただきたいと思います。

改定の経緯にも示されている、平成26年、27年の2カ年を費やしての見直し、改定ということですが、第2段階の手順推進の後半部が少し急ぎ過ぎているというか、ちぐはぐな手順となっているのではないのでしょうか。

あわせて、表記のされている内容について、一、二点お伺いします。

住民意見を反映させるためのパブリックコメントの聴取からプラン改定版の原案作成での議会提示までの期間が、余りにも詰まり過ぎているような感じがします。2月15日のパブリックコメント締め切りで、19日には全議員宛て議案書となって配付されています。22日の議会産業建設委員会、また24日に町都市計画審議会への諮問、29日の議会全員協議会と進められてきましたが、町都市計画審議会の諮問・答申を受けずに、議会への議案書提示は、示されている順序が逆なのではないのでしょうか。

パブリックコメントが幾つ出されたのかわかりませんが、住民意見を反映しての庁内検討でのまとめを経て、審議会諮問、そして答申を受けてから、議会への提案とされるのが、今回の改定への手順の道筋、本案提示のプラン、74ページに明記されております。審議会からの答申内容も提示されていないようです。2年間の見直し期間の中で、最後の15日間への凝縮さは、余りにも散漫な工程と思わざるを得ません。

特に、数年来見直しを唱えられてきた都市計画道路未着手各路線についてですが、今改

定においても、まだ向こう20年間、プランでの見直し表記とは信じられませんでした。都市計画の見直しについては、既に平成19年ごろから検討を打診されてきたはずでございませう。例えば、路線中、以前から漆原総社線については見直しが妥当であることは、衆目の一致するところ、町は、計画路線は膨大な経費面で、路線変更と費用対効果を算定しながら見直しをすると、以前より議会などで表明してきて、相互理解されてきたような気がします。今改定にて路線変更表示等での改定版が発刊されるものと確信しております。この路線は、漆原地域住民みんなの切なる願望なのであります。

公園にしてもしかりです。64ページ、地域2のまちづくり構想、都市施設、公園において、緑地運動公園が整備済みと断定されておりますが、北は滝沢川河口部、南に吉岡川河口部が未整備となっており、以前から整備計画が話題になっては立ち消えになっていたように思います。

今回のパブリックコメントで改めて当時の出来事を思い出していただきたく、利根川の荒廃を憂う、今は亡き大久保の住民と、これまた故人となられた当時の小寺県知事との交換メッセージをコメントの添付書類として提出させていただきましたが、ここで改めて一部ご紹介させていただきたいと思っております。

これは、平成5年の春のことです。

拝啓、小寺知事様、利根川に子供の遊び場をとということで、その公園を、利根川の公園をしてほしいと、吉岡町の関係者や官庁にお願いしてきたのですが、いつになっても進まない。そういう中で、本人は病院の中で療養中、手紙を書いて知事のほうに宛てたと。そうしましたら、すぐさま知事さんのほうからも返事が来て、町の計画待ちだという返事が来ています。

利根川河川敷の公園利用についてですが、所管の吉岡町に問い合わせた結果、利根川河川敷利用については、この場所は現在は河原ですが、湧水の場所、町ではこの場所を上流の施設とあわせ、自然観察ゾーンとして整備するよう計画を進めています。これらの施設を整備していくためには、低水護岸等が必要な場合には、河川管理者である県と協議を進めていきたいとの回答がありました。県といたしましては、町の計画が具体的に提示された段階で相談に乗っていきたくと考えています。亡くなられました知事さん本人から手紙が届いておりました。

いずれも、今回のプランの中では全く考慮されておりました。今回の改定において、調査・検討の範疇になかったのでしょうか。いかがでしょうか。お伺いいたします。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） まず、改定の経緯でございませうが、吉岡町がここでも、背景でも言っ

ております、平成13年に初めて策定をして以来、改定を行ってこなかった。その間、町としましては、このマスタープランの中でも記述のとおり、スピードを持った中で町の状況が変わってきたと。そういう中で今回、2カ年をかけて改定作業をさせていただいたということです。1年目につきましては、74ページにございますように、将来都市構造ということで、都市計画、土地利用の方針の見直し、これにつきまして、1年をかけまして検討委員会に町長から諮問をし、その回答を得て、土地利用方針ということでまとめ、それについてパブコメをかけて、町民全体から意見をいただいた中で第1段階を終了し、第2段階としましては、都市施設整備方針ということで、その見直しを図るために、今度は策定委員会を設置をして原案を取りまとめた。それで原案を取りまとめた後、庁議に諮りまして検討して、それをもってパブコメをかけて、それで都市計画審議会、これの図にありますように、かけて今回、議会のほうにお諮りをして策定議決をいただきたいというような流れで進めております。

議員がおっしゃるように限られた期間、これだけの期間でいいのかということも当然ありますけれども、限られた期間の中で2年かけて土地利用の、また都市構造の向こう、あるべき20年間について検討を重ね、その方向性を出してきたということでございます。

それと、未着手についてでございます。議員がおっしゃるように、都市計画道路を策定してから着手されているところ、整備がほぼ終わるところ、まだ全然手つかずと、一部手をつけていると、漆原総社線につきましては一部手がついて、ちょうど一番お金がかかる、財政負担の大きい場所が残っているわけでございます。

今回のこのマスタープランの中でも、この路線については、町が今後、駒寄スマートインターチェンジの大型車対応等、また幹線道路も南新井前橋線等が開通し、高崎渋川バイパスも開通する、そういう中でおのずとこれを受け皿とする赤榛道路に位置する、それをつないでいく重要な路線ということで、町も認識をしております。それに基づきまして、現実的な観点からこれも見直さなければならないということで、計画だけに終わらず、今町ができる中で、漆原総社線の一部変更も踏まえながら、今後の検討の中でだんだんと姿形をお示しできるのではないかと思いますけれども、これについてははっきり見直しをして実施をしていきたいと、そのための検討を行うということで、マスタープランでは方向性を示している中では、かなりその中では強い意志を持った中での文言となって記述をさせていただいております。

また、一部緑地運行公園が整備済みでこれはまだ未整備ではないか、整備中ではないのかということもございます。申しわけないですけれども、その公園が今議員がおっしゃったように、過去に小寺さんとの、その要望があったということはこのパブコメのときにいただいた文章等も読ませていただきました。こういう経緯もあったのかということ

で十分、これについては計画のこの反映ということよりも、こういう計画の形である要望として町は捉えましたので、文言の中には反映はしておりませんが、十分その辺も意は酌んだ中で進めていくという形になろうかと思えます。よろしくお願いします。

議長（岸 祐次君） 柴崎議員。

〔5番 柴崎徳一郎君発言〕

5番（柴崎徳一郎君） 見直しをされてきたという話ですけれども、見直してきたのなら、余りにもちょっと長過ぎるような、そんな感じがするのですけれども、自分も15年前の私は、プラン、すなわちロマンと勘違いしていたような気がします。都市計画マスタープランはロマンではありません。総合計画を基本とした、向こう20年間に進めるべきまちづくりへの整備計画であり、住民の意見を確実に反映するための調査・検討、そして庁内討議を十分に重ね、プランの実現に向けてしっかりとした進行管理のもと、順次、手順どおりに推進を図る必要があると、本案にもしっかりと示されております。

平成27年3月、昨年ですが、町都市計画マスタープラン見直し案での目標年次は前のまま、平成32年、2020年と表示されていて、これらを引き継ぐことを基本とする旨、掲げてあります。そしてまたことし3月の今回の町都市計画マスタープラン改定で、目標年次が平成48年、2036年と延長されております。1年で昨年の見直し案とことしの改定案に、余りにも大きな隔たりがあります。手順どおり進めてきたと答弁されておりましたが、昨年の都市計画マスタープラン見直し、パブリックコメントと、今回の改定の庁内協議では、どんな意見調整をされてきたのでしょうか。お伺いいたします。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） これについては、町の認識が甘かった部分がございます。町では平成13年の3月に都市計画マスタープランを策定し、これを見直しをすればいいんだということで、大きなこの中での見直し作業ということで平成26年は進めてまいりました。その結果、第1段階としてその方針をまとめて、今議員がおっしゃるような目標年次で進めてきたということでございます。結果、県から強い指導が入りまして、見直しではありませんと、改定ですということで、町として2カ年でやっていく中で、見直しではないんだ、そんな甘いものじゃない、改定ですよということで意識を強く持って今回策定をさせていただいたと。目標年次は今からということでございます。そういうことで、1年でのという部分では、年次がそういう形の中で、町の都市計画マスタープランに対する見直しと改定と、全く同じようで違う形の中で進めてきたという経緯がございます。

議長（岸 祐次君） 柴崎議員。

〔5番 柴崎徳一郎君発言〕

5 番(柴崎徳一郎君) 見直しではなく改定と、県から指導を受けたということで、なおさらなのですけれども、新年度、町スタートに本プランの必要性、内容等についてはある程度理解できますが、私自身もあと20年先を見届けるかわかりません。この先、プランが計画の見直しを検討しますや、最終ページの地域2、まちづくり方針図の構想路線だけでなく、しっかりとした計画路線表示で希望を申したいと思っております。

先日、担当者も説明の中でおっしゃってございました、プランの進行管理におけるチェック、進捗の点検からのアクション、見直しが最重要であり、必要に応じてその都度見直しをすると、プランの実現に向けてまちづくりを進めてほしいものです。20年後には、将来住民が通行できる見通しにご配慮を賜れば幸いです。漆原住民に何かコメントがございましたら、お願いします。なければ終わります。

議長(岸 祐次君) ほかにございますか。

平形議員。

[12番 平形 薫君発言]

12番(平形 薫君) 平成13年3月に、都市計画マスタープランを策定しまして、その計画に基づいてやってきたと。しかしながら、残念ながらといいますか、新たな住宅地が無秩序に広がったと書いてあるわけなのですけれども、そういった中で、私は都市計画審議会の委員なのですけれども、その中で議論というのはありましたけれども、なぜそうなったかと。やはり一番この根本的にあるのは、この11ページの頭のほうに書いてある、要するに吉岡町は非線引き区域である。本来ならば、線引き区域であれば、法的規制がかかって秩序ある計画といいますか、都市化が、市街化が進んだというふうに、担当の方は述べられておりましたけれども、残念ながらこの線引き区域になる町の基準は、そこに達していないということです。

その中において、例えばこの30ページからずっと書いてありますように、住宅地のあり方として住宅誘導エリア、これは説明方として都市計画諸制度を活用して計画的かつ積極的に住宅立地を規制誘導すると、こう書いてあるわけですが。住宅許容エリアにつきましても、31ページの中ほどに、都市計画諸制度の活用により建物の規模や種類に一定の規制を設けることについて検討するとあるわけですが。住宅調整エリア、これはいわゆる農地ですけれども、下のほうに無秩序な宅地化を抑制するため、必要に応じ建物の用途や規模、形態等についての規制を検討すると、こういうふうに書いてあるわけですが。

商業地のあり方につきましては、33ページの下の方に、良好な商業集積地の形成に向けては、都市計画諸制度を活用した、ここにも出てくるのですけれども、都市計画諸制度を活用した計画的なまちづくりを行い、一定のルールを設けながら、無秩序な乱開発を抑制すると、こう書いてあります。

さらに、工業地の方については、35ページの、やはりこの下段のほうに、良好な工業集積地の形成に向けては、都市計画諸制度を活用した計画的なまちづくりを行い、一定のルールを設けながら、無秩序な乱開発を抑制する、こう書いてあります。

さて、私の質問ですけれども、平成13年のこの都市計画マスタープランを策定して、同様に進めてきたというふうに思っております。その計画に基づいてまちづくりを推進してきたと書いてありますので、しかし残念ながら、新たな住宅地が無秩序に広がった。さらには、農地のほうにつきましては、39ページに、上のほうに、農地が虫食い状に開発されてきましたがと、こう書いてあるわけです。それでは、平成13年のマスタープランの失敗といえますか、思惑どおりにいかなかったことを、今回のこの都市計画マスタープランを策定して、今言ったような行動を規制、都市計画諸制度を活用したとか、一定のルールを設けながらとか、あるいは無秩序な乱開発を抑制すると書いてありますけれども、この具体的な方法をもう少し述べていただけますか。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 都市計画プランは、議員もご承知のように、計画やその方向性、今後20年を見据えた方向性を示す指針でございます。その今議員がおっしゃった、じゃあ規制はという具体的なものについては、このマスタープランが作成をされた後、この計画マスタープランに載っている、このものに基づいて、じゃあこの地域を開発するには、この地域を抑制するには、規制するには、どのような手法がいいのか、まちづくり、このマスタープランに沿ったまちづくりについてはどのような規制が町にとっていいのかというのが、今後出てくるものです。マスタープランについては、どの規制をするというものではないです。その方向性を決めた後、じゃあその方向性をこの先どのような形で実行していくかというものでございます。よろしく申し上げます。

議長（岸 祐次君） 平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

12番（平形 薫君） 方向性を示したということでございますけれども、この具体的手法については、この下段から進んでいくということですが、では、28ページに都市構想のビジョンと称して、2つの核を示しております。駒寄スマートインターチェンジとJR新駅です。このJR新駅についてお尋ねしますが、JR新駅は、私の記憶では、アンケートをとって、その結果は公表されていると思うのですが、記憶では、群馬総社駅と八木原駅の間に新駅をつくるといった場合、利用するのかということ、それをまとめますと、今現在、群馬総社駅と八木原駅を利用している方の総量が、新しく、新駅ができてその2つを足したものと3つを足したものがほぼ同じであると。いわゆる

真ん中に作った駅、JR新駅に、群馬総社駅とか八木原駅とかを利用してる方々がそれを利用するにすぎない、ふえないというふうにアンケートの結果はなっておるわけです。

それから、もう一つは、やはり人口ビジョンを策定したときに、この都市計画マスタープランの最初のほうに書いてあります、4ページにですね。人口構成はどうなんだと。要するに、生産年齢人口はほとんど変わらない。年少人口も変わらない。いわゆるその勤め先も通学先もそんなに人間変わるわけじゃないのです。何がふえるかといったら老年人口、65歳以上の方。65歳以上の方が、JR新駅ができてどこへ行くのですかと。そんなに行く人はいないと思いますよ。私が考えるのは、やはりこの2つの核の中にJR新駅を盛り込んだ都市計画マスタープランというのが、いわゆる無理じゃないかなというふうに考えるのですけれども、でもここに駒寄スマートインターチェンジとJR新駅、これを最大限生かしてやっていくんだということがあるのですけれども、このJR新駅をこの2つの核として据えつけた、その理由をもう少しはっきりとお答え願いたいと思うのですけれども。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） JR新駅のことですけれども、やはり説明でも申しましたように、吉岡町の強みの1つとして、鉄道が通っているということです。それで、その中でやはり鉄道が通っていて駅がないのが吉岡町ということで、新駅、これは総合計画にものっておりますけれども、やはり、まず群馬総社駅、八木原駅の利用者がという部分から質問が来ました。それで、人口が、利用者がふえないのではないか、ただ新駅をつくっても、それが分散するだけではないかというようなこと、それと人口ビジョンの中でも生産年齢人口、若年人口という、それでふえるのは主に老年人口がふえているという、そういう中で新駅が云々ということでございます。

やはり町の方向性としては、公共交通の充実は欠かせないものだと考えております。公共交通マスタープランの中では新駅は当然ないわけですから、その今あるものの交通の中でどのような形でその整備を図っていくのかということですが、都市計画マスタープランについては、やはり長期間、長期にわたっての課題として、やはり鉄道が通っている強みを最大限生かすべきではないかということで、長期的視野に課題としてまちづくりの核となる、なり得る新駅の設置を検討していくんだということで、方向性を示させてもらっています。それと、JR新駅の設置ということだと今の形になります。あとは……。よろしいですか。

議長（岸 祐次君） 平形議員。

〔12番 平形 薫君発言〕

1 2 番（平形 薫君） 都市計画審議会の中であったのですけれども、その都市計画マスタープランというのは、非常に夢ですよ。夢という回答がああとき、私は同じ質問をしたんですよ。なぜJR新駅が、その総利用者数がほとんど変わらず、しかもその20年後に向けて吉岡町の人口の構成が老年、65歳の方がふえると、利用しないんじゃないかということについて、さらにその席で言ったのは、相手があるんですね。JR東日本というね。駅をつくる時には、交渉相手が必要なわけです。しかも、ああときのアンケートの結果では、その駅に設置する費用、大幅に見込めれば、JR東日本も乗ってくると思うのですけれども、そういうことですから、ほとんど町の持ち出しのお金になると。そのお金は幾らぐらいになるんだ、数十億というふうな話だったのです。

だから、私はこの新駅が、書いてありますけれども、どういうことなのかと聞いたら、マスタープランをつくるにおいて夢が欲しかったと、こういう回答があったのです。それはそれでいいかもしれませんがね。しかしながら、この駅がここに書かれていて、そこから下をプランニングするときに、そのところがきちんとできないと、以下の計画が全然つけれないわけですよ。わずか20年ですよ。20年。20年といったら長いと思いましたが、とんでもない短いですよ。

あの城山防災公園だって、町長がよく返答しましたけれども、降って湧いたような話じゃないと。平成数年からずっと計画があって、財務的なその裏づけがないからできなかったんですよ。ところが、防災公園として整備すると、国から補助ができるんだと。我々のその財力で防災公園、大きい公園ができるんだと。防災公園として整備できるんだと。やはり夢を見ているわけですよ。

このJR新駅というのは、JR東日本があって、大きなお金が、防災公園よりももっと膨大なお金がかかるわけです。それを補助金としてもらう算段もなく、何もないのに夢だけここに書かれて、この夢を書いちゃったから、下の計画ができないじゃないですか。この2年間かけてPDCAを回すと書いてありますから、そこで見直されるのかもしれませんが、もう一度やはりよく検討してやるべきじゃないかなと。少なくとも20年は長くないですよ。防災公園だってもう20年ぐらいたっているわけです。やっとなでできているんですよ。この膨大な計画が20年なんていうのが先の話だなんて思ったらとんでもない。物すごく短いものだというふうに私は思います。

この今3つ目の質問なのですけれども、このPDCAを回すと書いてありますけれども、回すためには、この夢を書いた、この都市計画マスタープランではPDCAを回せないですよ。検討はできない。検討するためには、この下にあるいろんなアイテムの工程表が全部なければ検討できないですよ。PDCAですから。これはもうあくまでもPをつくるための基本構想図ですね。その一つ一つについてPが必要であって、それをD o

してActionがあるわけですから、CheckしてActionがあるわけです。
そこら辺のことはもう当然考えられると思うのですが、その具体的なスケジュールみたいなものはございますでしょうか。

議長（岸 祐次君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） まず議員の質問の中で、JR新駅については、策定は都計審の中で夢が欲しかったと言ったというような発言が今あったと思うのですが、私の記憶では夢が欲しかったとは記憶にはございません。夢という、夢が欲しかったために新駅をここにのせたということもその中では出ていなかったと思います。そこはちょっとあれですけれども、それである新駅についてはあくまでも長期的展望に立って検討していくんだということでやっていて、20年後につくるんだということではなくて、あくまでもマスタープランについてはJRの鉄道が通っている強みを生かしたいと。そのためには新駅の設置というのを長期にわたってこれを検討していくんだということで、やはりそこに住んでいる町民に対してすぐ隣に駅があるからそっち行ってくださいよではなくて、やはり住んでいる町民が一番近くで使える駅を、やはり町とすれば町民、そこに住む人たち、またその周辺を取り込んだ中で利便性を高めていいまちづくりをしていくためには、やはり方向とすれば駅を検討していくということは考えてございます。

また、PDCAについてのスケジュールです。議員がおっしゃるように、やはりPがあつてDがあつてCがあつてAです。その中で、今後やはり2年に1度程度というのは、Cの部分、Checkで進捗の点検、成果の把握、これが中心になろうかと思えます。やはりこれを今後進めていく中では、これを決めて進めていく中では、CのCheck、これが一番のメインとなりながら進行管理を進めていって、ということで考えております。よろしくをお願いします。

議長（岸 祐次君） ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第13号は、産業建設常任委員会に付託します。

日程第18 議案第14号 平成27年度吉岡町一般会計補正予算（第4号）

議長（岸 祐次君） 続きまして、日程第18、議案第14号 平成27年度吉岡町一般会計補正予算（第4号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 提案理由を申し上げます。

議案第14号 平成27年度吉岡町一般会計補正予算（第4号）について提案理由の説明を申し上げます。

本補正は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ397万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ67億5,073万4,000円とするものであります。

今回の補正の主な内容を申し上げますと、まず歳入では、2款地方譲与税を484万円減額、6款の地方消費税交付金を3,000万円追加、8款の自動車取得税交付金を520万2,000円を減額、10款の地方交付税を370万1,000円を追加、12款分担金及び負担金を1,425万円を減額、14款の国庫支出金を3,438万8,000円を追加、15款の県支出金を1,032万5,000円減額、18款繰入金を7,608万7,000円を減額、21款といたしまして町債を3,310万円を追加などでございます。

歳出では、1款議会費474万円の減額、2款の総務費に245万8,000円の追加、3款の民生費1,390万6,000円の減額、4款の衛生費2,191万2,000円の追加、6款の農林水産業費1,740万6,000円の減額、8款の土木費1,588万2,000円の減額、9款の消防費591万6,000円の減額、最後に10款教育費3,171万1,000円の追加などでございます。

今回の補正予算は、年度末を迎え、事務事業の確定に伴う計数整理並びに国の補正予算の成立を受け実施する情報セキュリティの強化対策事業及び駒寄小学校のトイレ改修事業が主な内容となっております。

なお、繰越明許費、地方債補正などは、詳細につきましては、財務課に説明させていただきますので、よろしくご審議の上、可決いただけますようお願い申し上げます。

議 長（岸 祐次君） 大澤財務課長。

〔財務課長 大澤弘幸君発言〕

財務課長（大澤弘幸君） それでは、議案第14号 平成27年度吉岡町一般会計補正予算（第4号）をごらんください。

平成27年度吉岡町一般会計補正予算（第4号）は、次に定めるところによるということで、第1条の歳入歳出予算の補正額でございますが、先ほど町長の説明にもありましたように、歳入歳出それぞれ397万2,000円を減額いたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ67億5,073万4,000円としたいものでございます。

第2条につきましては、繰越明許費でございます。地方自治法第213条第1項の規定

により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、第2表繰越明許費によるということで、7ページをごらんいただきたいと思います。

今回、9事業ございます。

まず、1つ目が、2款総務費1項総務管理費、事業名といたしましては、地方公共団体情報セキュリティ強化対策事業で、翌年度繰越額は1,550万円です。繰り越し理由といたしましては、国が平成27年度補正予算において、地方公共団体情報セキュリティ強化対策費補助金を創設し、各自治体に情報漏えい対策をするよう求めているため、それに対応するべく3月補正で計上しましたが、年度内での事業完了が困難なことから、繰り越しをお願いするものでございます。

2つ目が、3款民生費1項社会福祉費、事業名といたしましては、介護保険事業特別会計繰出金で、翌年度繰越額は43万2,000円です。繰り越し理由といたしましては、介護保険法の改正に伴うシステム改修について、平成28年度の施行分についても国の平成27年度補正予算により補助金の交付対象となるため、3月補正に計上し平成28年度に繰り越すものです。

3つ目が、8款土木費2項道路橋梁費、事業名といたしましては、町道三国線道路改良事業で、翌年度繰越額は223万円です。県との交差点協議に不測の日数を要したため年度内の完了が困難となり繰り越すものです。

4つ目が、8款土木費2項道路橋梁費、事業名といたしましては、町道大藪7号線道路改良事業で、翌年度繰越額は470万円です。地権者調査、境界確定に不測の日数を要したため繰り越すものです。

5つ目が、8款土木費2項道路橋梁費、事業名といたしましては、町道明小・北発地岡線道路改良事業で、翌年度繰越額は192万円です。地権者との交渉が長引いたため繰り越すものです。

6つ目が、8款土木費4項都市計画費、事業名といたしましては、駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化事業で、翌年度繰越額は1,026万2,000円です。繰り越し理由といたしましては、当初予定していた道路線形を地元を示したところ、変更の要望が多く出され、地元との調整に不測の日数を要したためでございます。

7つ目が、8款土木費4項都市計画費、事業名といたしましては、南下城山防災公園整備事業で、翌年度繰越額は23万8,000円です。繰り越し理由といたしましては、進入路の拡幅について北関東防衛局との協議に不測の日数を要したためでございます。

8つ目が、8款土木費4項都市計画費、事業名といたしましては、午王頭川親水公園基本構想策定業務で、翌年度繰越額は326万9,000円です。繰り越し理由といたしましては、地元との調整が整わないため、事業を年度内に完了することが困難になったこと

によるものです。

9つ目が、10款教育費2項小学校費、事業名といたしましては、駒寄小学校トイレ改修事業で、翌年度繰越額は4,590万円です。繰り越し理由といたしましては、平成27年度で不採択となり9月補正で減額した本事業について、国の平成27年度補正予算の範囲内で採択される方針が示されたため、3月補正予算に計上し平成28年度に繰り越すものです。

次に、また1ページに戻っていただきまして、第3条をごらんください。

第3条につきましては、地方債の補正でございます。地方債の追加及び変更は、「第3表・地方債補正」によるということで、8ページをごらんいただきたいと思います。

まず、追加として、一般補助施設整備等事業債（地方公共団体情報セキュリティ強化対策事業）660万円です。これは先ほど繰越明許のところの説明いたしました、国の補正予算に伴う地方公共団体情報セキュリティ強化対策事業に対応するための起債でございます。

続いて、学校教育施設等整備事業債（駒寄小学校トイレ改修事業）3,140万円です。これはやはり先ほど繰越明許のところの説明いたしました、国の補正予算に伴う駒寄小学校のトイレ改修事業に対応するための起債でございます。

次に、変更として、緊急防災・減災事業債（消防無線デジタル化事業）で、これは消防団の装備品であるデジタル無線機器の購入費が入札により減額となったため、限度額を990万円から500万円に変更するものです。

次に、補正予算書2ページをごらんください。

第1表の歳入歳出予算補正でございますが、まず歳入でございます。主に款項で補正額の増減の大きいものを申し上げたいと思います。また、補正予算書とは別に、こちらの説明資料を添付させていただきましたので、説明資料をごらんいただきたいと思います。説明資料では2ページをごらんください。

まず、2款地方譲与税第1項地方揮発油譲与税でございますが、ガソリンに課せられる国税である地方揮発油税収入額の一定割合が市町村に対して譲与されるものですが、当初の見込みより484万円減額となります。

6款地方消費税交付金は3,000万円の追加でございます。

8款自動車取得税交付金は520万2,000円の減額でございます。

10款地方交付税は調整額として減額されていた部分が、国の補正予算による増額により370万1,000円追加でございます。

次に、補正予算書では3ページ上段をごらんください。説明資料では2ページ下段をごらんください。

12款分担金及び負担金は1,425万円減額でございます。主に保育運営費保護者負担金（現年度分）の減額によるものです。

次に、14款国庫支出金3,438万8,000円の追加です。説明資料では3ページ中段から下段になります。増加の主な要因は、2項国庫補助金2,785万9,000円の増によるものでございます。主なものは補正予算書の14ページ中段、国保基盤安定補助金1,083万5,000円の増、補正予算書では15ページの中段、学校施設環境改善交付金（駒寄小学校トイレ改修事業）1,442万9,000円の増などによるものです。

続いて、補正予算書16ページの中段、説明資料のほうでは、4ページの中段で、15款県支出金は1,032万5,000円の減額です。減額の主なものは、補正予算書では17ページ、上から2行目の重度訪問介護等の利用促進支援事業県補助金489万8,000円の減、補正予算書18ページ中段の県議会議員選挙費468万5,000円の減などによるものです。

続いて、補正予算書20ページの上段、説明資料では6ページの上段、18款2項基金繰入金は7,640万円の減額でございます。主なものは、財政調整基金繰入金6,705万8,000円の減額によるものです。

今回の補正で、財政調整基金からの繰り入れは6億5,400万5,000円となります。これにより平成27年度3月補正後の財政調整基金の残高見込み額は23億3,773万4,000円となります。

次に、補正予算書21ページで、21款町債が3,310万円の追加となります。説明資料では6ページの下段になります。先ほど第3条の地方債のところの説明いたしましたので、省略をさせていただきます。

次に、歳出でございますが、補正予算書5ページ、説明資料では8ページをごらんください。

まず、1款議会費は474万円減額でございます。

次に、2款総務費は245万8,000円追加でございます。内容といたしましては、1項総務管理費で1,231万円追加、主な要因は補正予算書26ページ中段、説明資料では9ページ上段で、12目電子計算費の13節委託料で、先ほど繰越明許のところの説明させていただきましたが、地方公共団体情報セキュリティ強化対策事業により導入作業費1,226万円が追加されたことによるものです。

続いて、補正予算書27ページ中段で、説明資料では9ページ下段、3項戸籍住民基本台帳費339万円追加です。主な要因は、補正予算書28ページ最上段で、通知カード・個人番号カード関連事務の委任に係る交付金337万3,000円追加によるものです。

続いて、補正予算書28ページ中段、説明資料では10ページ最上段で、選挙費で1,088万1,000円の減額です。内容は、実績額確定に伴う減額でございます。

続いて、補正予算書では31ページ中段、説明資料では11ページの最上段で、3款民生費1,390万6,000円の減額でございます。主なものは、補正予算書では32ページ下段の臨時福祉給付金420万円の減額、33ページ中段の介護保険事業特別会計繰出金773万7,000円の減額、34ページ中段の難病患者見舞金300万円の減額、35ページ中段で、保育所運営委託料792万5,000円の追加などです。

続いて、補正予算書36ページ、説明資料では12ページ中段、4款衛生費で2,191万2,000円の追加で、主なものとしましては、補正予算書36ページの中段、国民健康保険事業特別会計繰出金2,269万6,000円、36ページ下から2行目、健康診査等委託料1,287万円追加などです。

続いて、補正予算書38ページ、説明資料では13ページの中段になります。6款農林水産業費では1,740万6,000円の減額、主なものは、補正予算書39ページ中段、説明資料では14ページ上段で、地籍調査費321万8,000円減額、補正予算書39ページ、下から4業目の渇水対策施設維持管理費の電気料777万6,000円減額、補正予算書40ページ、上から2行目の農業集落排水事業特別会計繰出金200万4,000円減額などです。

続きまして、補正予算書41ページ中段、説明資料では14ページ下段、8款土木費では1,588万2,000円の減額、主なものは、補正予算書42ページの1行目、説明資料では15ページ2行目で、大榛橋架け替え支障物件移設等負担金(榛東村施工)460万円の減額、補正予算書42ページ中段の道路除雪等委託料830万円の追加、補正予算書45ページ、上から4行目、公共下水道事業特別会計繰出金1,424万8,000円の減額などです。

続いて、補正予算書45ページ下段、説明資料では16ページ上段で、9款消防費で591万6,000円の減額です。主なものは補正予算書46ページ、上から3行目の消防団装備品で、内容はデジタル無線機器購入費で、入札減による489万9,000円の減額です。

続いて、補正予算書46ページ下段、説明資料では16ページ中段で、10款教育費で3,171万1,000円の追加です。主なものは2項小学校費3目学校建設費で、補正予算書では48ページ上段で、駒寄小学校トイレ改修事業で改修工事監理業務委託で172万8,000円、改修工事で4,417万2,000円を計上しております。

続きまして、補正予算書では54ページから56ページが、給与費明細書となっております。

次に、57ページが、地方債の平成25年度末及び平成26年度末における現在高並びに平成27年度末における現在高の見込みに関する調書でございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第14号は、総務常任委員会に付託します。

日程第19 議案第15号 平成27年度吉岡町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）

議長（岸 祐次君） 日程第19、議案第15号 平成27年度吉岡町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第15号 平成27年度吉岡町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について提案理由を申し上げます。

第1条、歳入歳出総額から歳入歳出それぞれ1,213万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ3億3,366万2,000円としたいものであります。

また、第2条、地方債の限度額を「第2表・地方債補正」のとおり変更したいものであります。

詳細につきましては上下水道課長に説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 大塚上下水道課長。

〔上下水道課長 大塚幸宏君発言〕

上下水道課長（大塚幸宏君） 議案書7ページをごらんください。

歳入、第1款分担金及び負担金439万8,000円の増額です。これは主に宅地開発に伴う一括納付による受益者負担金の増額になります。

第2款1項1目下水道使用料53万円の増額です。これは使用料の滞納繰り越し分の収入実績によるものです。

第3款1項1目下水道費国庫補助金16万円の減額です。これは社会資本整備総合交付金事業であります下水道事業計画期間延伸の業務委託と舗装本復旧の事業実績によるものです。

第5款1項1目繰入金1,424万8,000円の減額です。歳入歳出の相殺による減額です。

第7款1項2目過料15万7,000円の増額です。

第7款2項1目雑入9万1,000円の増額です。これは主に指定店の申請及び変更の交付手数料です。

第8款1項1目下水道事業債290万円の減額です。これは公共下水道事業債及び流域下水道事業債が確定したことによるものです。

9ページをごらんください。

歳出、第1款1項1目総務管理費48万2,000円の減額です。これは主に、報償費の受益者負担金一括納付報奨金48万7,000円の実績見込みに基づくものです。

第2目管渠管理費772万4,000円の減額です。これは主に、県央処理区維持費管理負担金が確定したことによるものです。

第3目建設費371万2,000円の減額です。これは主に、流域下水道建設負担金が確定したことによるものです。

4ページにお戻りください。「第2表・地方債補正」について説明いたします。

起債の目的の公共下水道事業の限度額400万円を420万円に、流域下水道事業の限度額1,140万円を830万円に減額し、限度額合計1,540万円を1,250万円に変更したいものです。

以上、よろしく願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第15号は、産業建設常任委員会に付託します。

日程第20 議案第16号 平成27年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算 (第2号)

議長（岸 祐次君） 日程第20、議案第16号 平成27年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 申し上げます。

議案第16号 平成27年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について。

議案第16号 平成27年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）についての提案理由を申し上げます。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3,657万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ25億2,095万6,000円とするものであります。

主な補正の内容としては、歳入はほぼ確定した項目を補正したものとなっております。

歳出は、確定した項目の補正と支出状況及び歳入状況を踏まえた補正となっております。

なお、詳細につきましては健康福祉課長をして説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） それでは、主な補正につきまして、説明を申し上げます。

歳入歳出予算事項別明細書でご説明させていただきます。8ページをお願いいたします。

歳入としましては、第4款の国庫支出金の第1項国庫負担金は、1,638万5,000円を減額する補正でございます。変更申請等に伴う補正でございます。

次に、第5款療養給付費等交付金を1,995万5,000円を減額補正するものです。変更交付決定額に合わせた補正となっております。

9ページをお願いいたします。

第7款の県支出金は、全体で82万9,000円を増額補正するものです。交付決定等による補正でございます。

第8款共同事業交付金は、1,764万3,000円増額補正するものです。国保連からの確定通知による補正でございます。

10ページをお願いいたします。

第10款の繰入金第1項第1目の一般会計繰入金は、2,269万6,000円の増額補正です。第2節の保険基盤安定繰入金保険者支援分は2,167万円の増額補正です。今年度、軽減措置の拡大に伴う公費負担分でございます。

第4節の出産育児一時金繰入金は、昨年の実績では32件ございました。今年度の当初予算には30件を見込みましたが、現状では16件でございます。19件を見込んでの減額補正となります。

第5節の財政安定化支援事業繰入金は、60歳から74歳までの年齢構成の格差等により給付費の増崇分を地方交付税で措置された額でございます。

11ページをお願いいたします。

第2項の基金繰入金を2,800万円とし、決算状況を想定し、計上させていただきました。

次に、第12款の延滞金を350万円の増額補正をするものです。現状の収入状況に合わせた補正でございます。

次に、歳出に移ります。12ページをお願いいたします。

第1款の総務費は、全体で69万1,000円を減額するものでございます。

13ページをお願いいたします。

第2款の保険給付費は、第2項の高額療養費1,727万2,000円を増額補正と第4項の出産育児一時金の減額補正をするものでございます。

16ページをお願いいたします。

第7款の共同事業拠出金を増額補正するものであります。国保連からの確定通知による補正でございます。

第8款保険事業費は、全体で179万9,000円の減額補正です。主に特定健診等の健診委託料の減額を行うものでございます。

以上、主な説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第16号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第21 議案第17号 平成27年度吉岡町農業集落排水事業特別会計補正予算 (第3号)

議長（岸 祐次君） 日程第21、議案第17号 平成27年度吉岡町農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 説明申し上げます。

議案第17号 平成27年度吉岡町農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）につ

いて提案理由を申し上げます。

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ210万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億6,073万5,000円としたいものであります。

詳細につきましては上下水道課長より説明させますので、ご審議、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 大塚上下水道課長。

〔上下水道課長 大塚幸宏君発言〕

上下水道課長（大塚幸宏君） 議案書6ページをごらんください。

歳入第1款1項1目分担金58万円の減額です。これは小倉地区と北下南下地区一括納付分の納入実績になります。

第2款1項1目使用料14万3,000円の増額です。これは滞納繰り越し分の平成26年度以前分の納入実績になります。

第3款1項1目繰入金200万4,000円の減額です。これは一般会計からの繰入金で、歳入歳出の相殺によるものです。

第5款1項1目諸収入33万9,000円の増額です。これは東京電力からの放射性物質検査料です。

7ページをごらんください。

歳出、第1款1項1目総務管理費5万1,000円の増額です。これは主に、職員手当等によるものです。

第2目施設管理費215万3,000円の減額です。これは主に、需要費192万3,000円の減額によるものです。

以上、よろしく願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第17号は、産業建設常任委員会に付託します。

ここで休憩をとります。再開を3時といたします。

午後2時45分休憩

午後3時00分再開

議長（岸 祐次君） それでは、会議を再開します。

日程第22 議案第18号 平成27年度吉岡町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正
予算（第1号）

議長（岸 祐次君） 日程第22、議案第18号 平成27年度吉岡町住宅新築資金等貸付事業
特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 説明申し上げます。

議案第18号 平成27年度吉岡町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第1
号）について。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ31万3,000円を追加し、歳入歳出予算の
総額を歳入歳出それぞれ451万9,000円とするものでございます。

補正の内容といたしましては、主に歳入の貸付金元金及び利子回収金過年度分の住宅新
築及び住宅取得等の貸し付け事業収入が、回収業務等により増額となり、歳出も歳入と連
動して繰出金も増額となったことによる補正でございます。

詳細につきましては町民生活課長より説明させますので、ご審議の上、可決いただきま
すようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 大井町民生活課長。

〔町民生活課長 大井 力君発言〕

町民生活課長（大井 力君） 議案第18号 平成27年度吉岡町住宅新築資金等貸付事業特別会計
の補正予算でございます。

第1条、歳入歳出予算の総額に歳出予算それぞれ31万3,000円を追加し、歳入歳
出予算の総額を歳入歳出それぞれ451万9,000円とするものでございます。

それでは、4ページ、5ページの歳入歳出事項別明細書をごらんください。

初めに、歳入の第1款貸付事業収入を31万3,000円増額するために補正をさせて
いただくものでございます。

また、歳出では、第3款諸支出を同額の31万3,000円増額するために補正をさせ
ていただくものでございます。

そのようなことから、結果的に一般会計への繰出金が31万3,000円増額になり、
一般会計繰出金総額で266万円になるものでございます。

以上でございます。よろしく願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第18号は、総務常任委員会に付託します。

日程第23 議案第19号 平成27年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）

議長（岸 祐次君） 日程第23、議案第19号 平成27年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第19号 平成27年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）について提案理由を申し上げます。

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ3,379万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ13億1,561万8,000円とするものであります。

なお、詳細につきましては健康福祉課長をして説明させますので、ご審議の上、可決いただけますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） 補正の内容につきましては、主に歳出の保険給付費の減額に伴うものでございます。当初見込みより若干低調の状況と言えます。

歳入は、歳出の減額に伴って負担割合での減額となっております。

それでは、補正予算書の主な内容の説明をさせていただきます。12ページをお願いいたします。

歳出から説明を申し上げます。

第1款の総務費は、全体で232万8,000円の減額となっております。主に、第1項第1目の一般管理費のシステム改修委託料、13ページの第3項第1目の認定調査費の人件費の減額となっております。

次に、第2款保険給付費は、全体で3,270万3,000円の減額です。主に、1項1目の居宅介護サービス給付費の2,590万円の減額と、第3目の地域密着型介護サービス給付費の1,390万円の減額等でございます。現在までの支出状況と、残りの給付費の予測をした補正となっております。

16ページをお願いいたします。

第4款の地域支援事業は、全体で470万1,000円の減額です。主に、1項2目の二次予防事業委託料の80万9,000円の減額、第2項第1目の包括的支援事業の295万2,000円の減額です。

8ページをお願いいたします。

歳入の説明に移らせていただきます。

第1款保険料の第1号被保険者保険料の現年度分の特別徴収分と普通徴収分、それぞれの調定見込みに合わせた補正となっております。

第2款国庫支出金の第1項第1目介護給付費負担金、9ページ、第3款の支払基金交付金の第1項第1目の介護給付費交付金、第4款の県支出金の第1項第1目の介護給付費負担金及び10ページ、第6款の繰入金の第1項第1目介護給付費繰入金の減額は、歳出の保険給付費の減額に伴う減額補正でございます。

8ページに戻っていただきまして、第2款国庫支出金の第2項第2目及び第3目地域支援事業支援交付金、第3款の支払基金交付金の第1項第2目の地域支援事業交付金、10ページの第4款県支出金の第2項第1目及び第2目の地域支援事業交付金、第6款の繰入金の第1項第2目及び第3目の地域支援事業繰入金の減額は、歳出の地域支援事業費の減額に伴う減額補正でございます。

9ページにお戻りください。

第2款国庫支出金の第2項第6目の事業費補助金は、歳出の第1款の総務費のシステム改修委託料に係る補助金でございます。

10ページをお願いいたします。

第6款の繰入金の第1項第4目の一般事務費繰入金は、歳出の第1款の総務費の減額によるものでございます。

11ページをお願いいたします。

第7目の低所得者保険料軽減繰入金は、保険料第1段階軽減の公費負担分の増額補正でございます。

最後に、18ページをお願いいたします。

第5款基金積立金へ補正額の歳入歳出の差額であります、594万3,000円を積み立てをいたします。

また、5ページをお願いいたします。

第2表繰越明許費につきましては、一般会計で説明がありましたけれども、介護保険システムの改修委託費としまして86万4,000円、これにつきましては国から、28年度事業で行うものでございますが、27年度で国の補正予算がございましたので、それを歳

入に充て、歳出として86万4,000円とするものでございます。

以上、主な説明とさせていただきます。よろしくお願いいいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第19号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第24 議案第20号 平成27年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算 (第3号)

議長（岸 祐次君） 日程第24、議案第20号 平成27年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 申し上げます。

議案第20号 平成27年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）についての提案理由を申し上げます。

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ406万4,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億6,168万3,000円とするものであります。

なお、詳細につきましては健康福祉課長をして説明させますので、審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 福田健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） それでは、説明をさせていただきます。

補正の内容につきましては、歳入においては、保険料、繰入金等がほぼ確定したことと、歳出におきましては、広域連合へ納入する納付金等がほぼ確定したことによる補正内容でございます。

議案書の6ページ、7ページで説明をさせていただきます。

補正の主な内容は、歳入において、第1款の第1目の現年度分特別徴収保険料の944万8,000円の減額と第2目の現年度分普通徴収保険料の532万1,000円の増額です。調定額がほぼ確定したことによる補正でございます。

第2款の第1項第1目の保険基盤安定繰入金を177万1,000円増額するものでござ

ございます。これもほぼ確定したことによる補正でございます。

第4款第1項の委託事業収入の減は、歳出の第1款総務費の減額に伴う補正でございます。

次に、歳出、第1款の総務費、第1項第1目の健康診査委託料の減額でございます。事業がほぼ確定したことによる補正でございます。

第2款の後期高齢者医療広域連合納付金の238万9,000円の減額でございます。広域連合からの変更通知等による補正でございます。

以上、説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第20号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第25 議案第21号 平成27年度吉岡町水道事業会計補正予算（第3号）

議長（岸 祐次君） 日程第25、議案第21号 平成27年度吉岡町水道事業会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 提案申し上げます。

議案第21号 平成27年度吉岡町水道事業会計補正予算（第3号）について提案理由を申し上げます。

第2条、収益的収入及び支出について、水道事業収益で156万8,000円を増額して4億2,066万8,000円に、水道事業費用で107万6,000円を増額して4億1,154万9,000円に、また第3条の資本的収入及び支出において、資本的収入で3万8,000円を増額して5,258万3,000円に、資本的支出で7万5,000円を増額して2億327万8,000円に補正をお願いするものであります。

詳細につきましては、上下水道課長より説明させますので、審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（岸 祐次君） 大塚上下水道課長。

〔上下水道課長 大塚幸宏君発言〕

上下水道課長（大塚幸宏君） それでは、議案書1ページをごらんください。

第2条、収益的収入及び支出、収入の部、第1款水道事業収益156万8,000円の増額です。内訳は、第1項営業収益119万3,000円の増額、第2項営業外収益37万5,000円の増額です。

3ページをごらんください。

営業収益の主なものは、給水収益376万9,000円の減額となる見込みですが、給水見込みにかかわる水道加入金等のその他営業収益が496万2,000円の増額となる見込みです。

営業外収益では、長期前受金戻入26万2,000円の増額、雑収益は、県道南新井前橋線の道路改良工事にかかわる水道メーター移転補償などで11万3,000円の増額となる見込みです。

1ページに戻っていただきまして、支出の部です。

第1款水道事業費用107万6,000円の増額です。内訳は、第1項営業費用58万7,000円の減額、第2項営業外費用は、消費税及び地方消費税で166万3,000円の増額です。

3ページをごらんください。

支出の営業費用では、配水及び給水費226万9,000円の減額で、減額の主な内容は、入札差金に伴う委託料の減額120万3,000円、浄水場・井戸にかかわる動力費の減額116万9,000円が挙げられます。

総係費は、時間外勤務手当などの人件費で42万2,000円の増額、以下、減価償却費と資産減耗費、材料売却原価は、増額の補正内容になっています。

営業外費用の消費税の増額は、決算期において不用額となる可能性のあるものを最大限見込んで計上させていただいたものです。

以上、よろしくお願いいたします。

議長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第21号は、産業建設常任委員会に付託します。

日程第26 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について

議長（岸 祐次君） 日程第26、諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題とします。

石関町長の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 説明申し上げます。

諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についての提案理由を申し上げます。

人権擁護委員の現行委員の任期満了に伴い、その推薦を行うに当たり、議会の意見を求めるものであります。

その候補者は、氏名、石関秀一、住所は、群馬県北群馬郡吉岡町大字南下867番地の3、生年月日は、昭和30年5月12日生まれ。

長年にわたり、学習塾を営み、地域の子供たちへの学力向上の一助を担っておられます。

地域でも自治会役員、伝統芸能保存活動や地域活動など多方面で活躍されておる方でございます。

地域から信頼され、人格見識高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解ある方だと思っております。

よろしく願いをいたします。

議 長（岸 祐次君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（岸 祐次君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている諮問第1号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第27 陳情第1号 軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口の設置を求める陳情

議 長（岸 祐次君） 日程第27、陳情第1号 軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口の設置を求める陳情を議題とします。

陳情第1号は、お手元配付の陳情書のとおり、「軽度外傷性脳損傷仲間の会」代表藤本久美子氏からの陳情を受理したものです。

この陳情は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第28 町長施政方針

議 長（岸 祐次君） 日程第28、町長の施政方針を行います。

石関町長は登壇して、施政方針を述べてください。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） それでは、施政方針を述べさせていただきます。

平成28年第1回吉岡町議会定例会が本日開催され、先ほどまで平成28年度当初予算以外の議案の提案を行いました。

本日の日程の最後になりましたが、平成28年度の施政方針を申し上げます。

昨年は、TPPの大筋の合意、マイナンバー法の施行開始、選挙権年齢の引き下げ、少子高齢化対策及び地方活性化対策としての地方創生法の施行による国、地方の総合戦略の策定事業の実施、さらには一億総活躍社会実現のための補正予算の閣議決定と、地方自治体にとっても影響の大きな政策法案等が政府より打ち出されています。そして、1月4日に開会した通常国会においても補正予算が可決されています。

安倍総理のアベノミクス効果は、地方にどのような影響があったのでしょうか。皆さんもいささか疑問に感じるのではないのでしょうか。

地方の中小企業や個人経営者にもぜひ景気の好循環が実感できるように、これからの新三本の矢における施策に期待したいところでもあります。

次に、日本経済にも影響を及ぼす世界経済はどうでしょうか。このところ、中国経済の減速及び原油安による円高基調、株安による波乱含みの幕開けではなかったかと思っております。

1月末には、日銀によるマイナス金利が打ち出されました。このことにより、株の反騰、円安とマイナス金利政策は効果があったと思われます。しかし、マイナス金利は強い薬効がある反面、副作用が心配されます。薬の使い方には十分な注意が必要だと思います。安定した経済と将来に安心のある生活実現のため、政府による一層の努力をしてもらいたいものです。

吉岡町の人口は、平成28年1月1日現在、2万753人と相変わらず増加の傾向です。吉岡町の年齢区分別人口は、昨年の10月1日の時点で、ゼロ歳から14歳までのいわゆる年少人口は3,463人で、割合は16.8%であります。また、15歳から64歳までのいわゆる生産年齢人口は1万2,925人で、割合は62.5%であります。次に、65歳以上のいわゆる老人人口は4,285人です。割合は20.7%であります。ちなみに、吉岡町の平均年齢は41.95歳と若い町でもあります。

平成25年度の群馬県人口動態調査によりますと、群馬県内35市町村の中では、吉岡町と大泉町のみが自然増比率、社会増比率ともプラスになっております。このことから吉岡町は人口減少社会の中であって、ごくまれな人口増の町と言えるのではないのでしょうか。

町では、平成27年度において、地方創生による吉岡町人口ビジョン・総合戦略並びに吉岡町総合計画後期基本計画及び吉岡町都市計画マスタープランを策定をいたしました。

国立社会保障・人口問題研究所によりますと、吉岡町の将来推計人口は、2050年を

ピークに減少に転じるとしています。

現在、町では無秩序な開発を防ぐ目的といたしまして、土地利用に関するルールづくりに着手しております。今後、住環境の改善が進むことにより、周辺自治体よりも比較的割安だった地価・家賃等の価格的な差は詰まっていくことも想定されます。また、ベッドタウンとして発展してきた吉岡町としては、今後、周辺自治体との都市基盤整備や各種施策の進展などの外部要因により、結果的に流入人口が減少することも考えられます。

こうしたさまざまな要因の中でも、将来的な社会増を推進していくためには、地域の魅力を高めると同時に、安心して住み続けられるまちづくりを進め、定住性の改善を目的として流出人口を抑える施策に取り組んでいくことが必要となります。また、将来にわたって安定した人口を維持するためには、人口構成のバランスの維持が重要であることから、子育て支援等の充実により、合計特殊出生率の改善を図っていくことも必要であります。

このようなことから、吉岡町では2040年までに合計特殊出生率を2.07に上昇せるとともに、これからも一定の社会増を持続させることにより、2060年の将来人口の目標を2万4,800人と設定いたしました。

人口ビジョンで増加の目標設定を打ち出している市町村は、県内は高崎市と吉岡町だけと聞いております。2市町とも、社人研の推測では、ある時期まで増加し、その時期を境目に減少に転じると予測されております。減少に転じることのないよう、施策を講じていくことで、目標人口を設定しております。

人口減少問題は、減少している自治体はもちろんですが、日本全体で避けることのできない問題であるとも考えています。吉岡町の人口がこのままふえ続けるとすれば、医療・福祉サービスの低下、インフラ整備のおくれ、さらには子育て支援や行政サービスが追いつかない状況など、多くの懸念材料が挙げられます。

しかし、そのような事態に陥ることのないよう、しっかりとした施策の推進と、そのための財源の確保に努め、さらには雇用問題にも町としてできる対応をしていかなければならないのが、行政の大切な役割だと思っております。

将来の方向性をしっかりと定めて、行財政運営に臨まなければならないと、責任の重大さを重く受けとめているところでもあります。

さて、平成23年度からスタートした吉岡町第5次総合計画は、平成28年度から後半の5カ年がスタートいたします。平成27年度は、第5次総合計画の後期基本計画を立て、平成32年度を目標年とする第5次総合計画に沿って「キラリ よしおか 人と自然輝く吉岡町」の実現に向けて努力していかねばなりません。

平成28年度当初予算案の編成に当たっては、これまで手がけた事業を円滑に、しかも着実に前進させ、なおかつ新規事業、やらなければならない事業に、しっかりと前向きに

取り組んでいきます。限られた財源の中ですが、できるだけ無駄を省き、効率のよい予算執行に努めていくつもりであります。

町の財政状況については、平成26年度決算で、経常収支比率は90.6%とやや高い率を示しており、財政の硬直化が進む傾向にあるものの、人口増を背景とした個人住民税や固定資産税の堅調な増加等を背景に、財政力指数は0.65と年々上昇をしております。

また、財政健全化比率の状況は、基金の増加、町債残高の減により将来負担比率が1.9と減少傾向にあるものの、まちづくり交付金事業債の償還開始により、実質公債費比率は10.0と上昇傾向にあり、公債費の負担が高くなっています。今後、渋川広域の最終処分場の建設債の償還開始により、さらに上昇することが想定をされております。

平成28年度当初予算は、総額で19.5%の伸びとなります。詳細はあすの当初予算案の提案説明にて行いますが、主な新規事業の中でも、明治小学校の増築、駒寄幼稚園の改築への助成、学童クラブの新築で、およそ8億円の増加になります。また、継続事業の中でも、駒寄スマートインター大型車対応化事業で前年度当初予算対比およそ4億円の増加となっております。

平成28年度の歳入の見込みとしては、町税は人口増や所得の増等を背景に対前年度2%の増、地方交付税は算定の基礎となる国勢調査人口の増により、対前年度比4.8%の増を見込んでおり、町債については、上昇傾向にある実質公債費比率の抑制、財政健全化のために、これまでの町政の中で積み立ててきた財政調整基金を活用することで借り入れを抑制し、対前年度マイナス8.5%としております。

歳入総額を自主財源と依存財源で見た場合、自主財源は48.5%、依存財源は51.5%となっております。

税収や地方交付税がふえるからといっても、潤沢に財源があるわけではなく、厳しい財政状況には変わりはありませんが、町は立ちどまっているわけにはいきません。

「前進する吉岡町」のために、住民の期待に応えるべく、各種事業に取り組んでいきます。町の歳出は、かかるべき扶助費を当然確保しつつ、現在進行中の継続事業を着実に推進をしていきます。主な大型継続事業は、1つにして南下城山防災公園整備事業、2つ目といたしまして駒寄スマートインターチェンジの大型車対応化事業、3番目といたしまして上水道の老朽管布設かえ工事の3点でもあります。

また、来年度予定の新規事業では、防衛省補助事業関連の無線放送施設設置助成事業（防災無線デジタル化事業）を実施設計業務として始めます。5番目といたしまして、明治小学校増築事業、その他に、駒寄幼稚園整備助成事業、学童クラブ新築事業、公共施設等総合管理計画策定業務、立地適正化計画策定業務など、町民の要望に応える施策と同時に、子ども・子育て支援施策や新規事業を手がけていく所存でもあります。

これまでも「子どもを育てるなら吉岡町」を合い言葉に、子育て支援には群馬県に先駆け、また近隣市町村におくれることなく努力してきたところでもあります。中学生までの医療費の無料化、学校給食費の値下げ並びに助成、学童保育の低料金化と整備拡充、吉岡会の保育園の整備拡充、マイタウンティーチャーの配置、学校教育施設の整備など、常に「前進する 吉岡町」を目指してきました。

こうした施策の数々が、多くの方々に評価されたあらわれとして、人口がふえ、この町に移り住みたい人がふえ続けてきた最大の要因ではないかと思っております。

町では、この流れをここで閉ざすわけにはいきません。これからも総合計画の基本構想を踏まえ、目標達成に向けて、各行財政分野の一層の充実を図っていくため、将来に責任を持てる行財政運営を基本に施策の実現に向けて、効率的、そして効果的な予算案の作成に努めたところでもあります。

平成28年度当初予算案を上程し審議していただくわけですが、基本的な方針と主要施策について述べさせていただきます。

予算編成には、将来を見据えて適切に各分野の適正な予算配分に考慮することが重要であると認識しております。第5次総合計画の中には6つの施策の大綱があります。1つに支え合う健康と福祉のまち、2つ目に心豊かな教育と文化のまち、3番目に活力ある産業と雇用のまち、4番目に魅力的な自然と環境のまち、5番目に住みよい安全で便利なまち、6番目といたしまして、町民と行政が協働するまちを実現するために、バランスのとれた施策の推進に一步一步着実に取り組んでいきます。

それぞれの分野の主な事業と方針について、述べさせていただきます。

まず、1つ、支え合う健康と福祉のまちでは、心身ともに健康で長生きし、生き生きと輝き、誇りと生きがいを持って暮らせるような保健、医療、福祉の各分野が連携のとれたサービスを提供するよう努めます。

具体的な主な事業といたしましては、医療費の無料化、子供、重度心身障害者、母子・父子家庭の健康管理の向上に寄与するために、医療費の公費負担を継続していきます。

2番目といたしまして、各診断の無料化、町民を対象にがん検診のほか、肝炎ウイルス検診なども実施し、疾病の早期発見・早期治療につなげているところですが、今年度からは、以前から住民要望が多かった胃カメラを導入し、バリウムと胃カメラのいずれかを選択できる体制を整えていきたいと考えております。

3番目といたしまして、総合戦略における継続事業としては、産前・産後サポート事業、子育て相談事業、ほかに不妊・不育対策支援事業があります。不妊・不育対策支援事業は、今年度からは、従来の特定不妊治療に加え、一般不妊治療、男性不妊治療、不育症治療についても助成の対象を拡大するものであります。

新規事業としては、赤ちゃんの駅（情報マップ事業）、こどものこころの発達健診、年中児こころの成長アンケート、発達支援教室のほか、主な事業としては、学童クラブ施設新築事業、保育士等確保事業、私立保育所等施設整備助成事業があります。

私立保育所等施設整備助成事業は、平成29年度から認定こども園に移行する駒寄幼稚園の園舎建てかえに助成し、ゼロ歳からの受け入れによる児童の保育環境等の改善を図るためのものです。

次に、大綱の2つ目、心豊かな教育と文化のまちでは、すぐれた知性を身につけ、豊かな心を持ち、心身ともに健やかな成長をするよう、学校・家庭・地域社会の連携・協力のもと、学校教育の充実を図り、かつ全ての町民が生涯を通じて学ぶ意識を持ち、学習活動や文化・スポーツ活動に取り組める環境づくりに努めます。

具体的な主な事業としては、明治小学校校舎増築事業。児童数の増に伴い教室の不足が見込まれるため、プールの跡地に特別教室棟を増築するものであります。文部科学省と防衛省の補助金事業により行う事業でもあります。

調理業務等の民間委託。国の行財政改革の流れの中で、文部科学省から「一定の条件のもと地域の実情に応じた適切な方法により運営の合理化を推進するよう」方針が示されており、平成25年1月10日付で吉岡町学校給食センター運営委員会に諮問し、平成25年10月16日付で、「調理業務の委託」の答申をいただいております。ことしの4月より調理業務を委託により行うことになりました。また、町の正規職員を常駐させ、吉岡町学校給食特別会計の管理を行っていきたいと思っております。

3番目といたしまして、学校給食費に対する助成。吉岡町の学校給食はとてもおいしいと評判であります。しかしながら、乳製品を初めとする食材費の高騰や消費税の引き上げで、バランスのとれた献立、安全な食材の確保が脅かされてはなりません。ご承知のとおり、給食の食材費は徴収された給食費で賄われています。町では、平成27年度から給食費の助成を1人当たり月額950円にしております。また、あわせて子育て支援を充実させるべく給食費の値下げを行いました。

児童生徒数は2,000人を超えていますが、子供を持つ家庭の家計をこれからも応援をしていきたいと思っております。未来を背負う子供たちに、安心してしかもおいしい給食の提供にこれからも努めてまいります。

4番目といたしまして、子ども交流事業。子供たちに北海道の大自然の体験をさせたいと切望していましたが、ようやく平成25年度から実施することができ、平成28年度で4年目を迎えるとしております。体験を終えた子供たちは、目を輝かせ貴重な体験を真剣な表情で語ってくれました。大樹町のすばらしいところを肌で感じ、将来に夢を膨らませてほしいと期待し、これからも交流事業を継続していきたいと思っております。また、子供交

流に限らず幅広い分野での交流の道を探りながら進めていきたいと思っております。

5番目といたしまして、スポーツの振興。多目的運動場として平成2年に開設した八幡山公園グラウンドは、人口増加や中学校に隣接する立地性から手狭となったため、拡張整備する必要に迫られ、平成27年度に用地取得が完了いたしました。今後は、財政状況を見ながら有効かつ効率的な補助事業等を探りながら進めていきたいと思っております。

次に、大綱の3つ目、活力ある産業と雇用のまちでは、多様な地域資源を生かした地域産業の振興に総合的に取り組むとともに、交通網整備にも努めます。

具体的な主な事業といたしましては、1つに、観光について。昨年も実施しました「観光PR事業」並びに「よしおか再発見ウオーク」及び「道の駅『よしおか温泉』情報発信機能強化事業」により、観光に力を注いでいきたいと考えております。

「よしおか再発見ウオーク」は、「町民と行政が協働するまち」にも関連しますので後述したいと思っております。「観光PR事業」の事業内容につきましては、既にご承知と申しますので省略をいたします。両事業とも第5次総合計画のシンボルプロジェクトである「よしおか再発見プロジェクト」に関連した事業でもあります。

「道の駅『よしおか温泉』情報発信機能強化事業」は、平成27年3月議会において、地方創生における先行型交付金事業として繰り越し事業の補正予算を可決していただいた事業で、道路利用者への情報提供はもとより、通行施設から地域の拠点として広域的なネットワーク機能を期待されております。町でも道の駅よしおか温泉を東の玄関口として位置づけていることから、広域的観光案内、防災及び地域情報の提供施設として、さらなる整備を図るとともに、地域特産品のPRにも力を入れていくという事業で、ハードとソフト事業を組み合わせ実施しました。平成28年度は、そのソフト事業のみを実施するものです。昨年は、「道の駅よしおか温泉交流祭（道の駅まつり）」を1回開催しましたが、今年度は3回の実施を予定をしております。

また、駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化事業が完了すれば、観光地の赤城榛名を背景に名湯伊香保温泉の玄関口としても利用が見込めます。ブドウや乾燥芋を初め、おっきりこみなど、地域特産品の情報発信や、道の駅よしおか温泉を拠点に、町商工会、周辺市町村と連携し、観光の周遊性を向上させたいと考えております。吉岡町を広く知ってもらう格好の機会になることだと思っております。

2番目といたしまして、住宅リフォーム促進助成事業。住宅リフォーム促進助成事業を実施して3年目になります。暮らしやすい住まい、安心した生活を送っていただくよう、あわせて地域経済の活性化、町内住宅関連業者の育成、消費の拡大など発展につながってほしいと思っております。

次に、大綱の4つ目、魅力的な自然と環境のまちでは、受け継がれてきた自然環境を守

り、美しい町の風景を守り育てるとともに、地域環境や地球環境の保全に努めます。

具体的な主な事業といたしましては、1つとして、太陽光発電システム設置事業、住宅用太陽光発電システム設置補助金は、平成24年度から開始されました。住宅の新築時に太陽光発電を検討する家庭は少なくありません。ぜひ機会を逸することなく、環境に負荷の少ないクリーンエネルギーの普及促進を検討し、助成制度を活用してほしいと思っております。この事業には、平成28年度も補助施策を継続していきたいと考えております。

さて、午王頭川親水公園基本構想の策定ですが、平成27年度一般会計補正予算（第4号）でも繰り越しの説明をしましたが、予定地の自然環境を守りつつ、地域の人に喜んでもらえる楽しい公園、川に親しんでもらえる水辺の空間として整備していきたいと考えております。地域住民の方々とよく相談をして進めていきたいと思っております。

次に、大綱の5つ目、住みよい安全で便利なまちでは、町民が安全・便利に生活できるよう、安全なまちづくりを進めると同時に、計画的な土地利用と町民生活を支える道路網や公共交通網等の確保に努めます。

具体的な主な事業といたしましては、総合戦略に盛り込まれている事業で、昨年に引き続きの事業として、1つとして、防犯カメラ設置事業及び放課後児童見守りパトロール事業。住民の安心や児童生徒の安全な通学、さらには町が所有する施設の管理を目的として防犯カメラを設置します。また、下校時間帯の児童の安全・安心のため見守りパトロールを実施いたします。犯罪を未然に防ぐ抑止力には有効に働くと言われております。平成26年度の防犯灯LED化事業と昨年実施して続いた、安全・安心なまちづくりに引き続き取り組んでいきたいと思っております。

総合戦略に盛り込まれている新規事業として、自主防災組織支援事業。自主防災組織を支援することで、地域防災力の向上を図り、地域と一体となったまちづくりを推進していきます。

3番目といたしまして、防災無線デジタル化事業。現在の防災無線は、平成11年に整備されており老朽化が進んでいます。近年の大規模災害の発生を教訓として、これまでに以上に多様化・高度化する通信ニーズへの対応が要求されていることから、防衛省の補助事業による整備を図るものです。今年度は、実施設計を予定をしております。

次に、総合戦略の対象外の事業では、最初に、土地利用の見直し。吉岡町では、上毛大橋や吉岡バイパスの開発に伴って、住宅地や商業地などの土地利用の状況が大きく変化をしております。また、駒寄スマートインターチェンジの大型車対応化が完成すれば、まちづくりの新たな核となり、上武国道や高崎渋川線バイパスの全線開通など、相乗効果により、都市構造のさらなる進展が期待されます。

こうした状況の中、平成26年、27年度の2カ年をかけ、今後20年先を見据えた都

市計画マスタープランの改定を行っております。平成28年度以降は、土地利用の具体的な規制、誘導方法について検討し、住宅地の誘導のあり方や、駒寄スマートインターチェンジ周辺の土地利用のあり方などについても、県の指導を仰ぎながら実現可能な都市計画の手続を進めております。

南下城山防災公園整備事業。南下城山防災公園整備事業は、平成24年度を初年度に防衛省民生安定事業として整備を進めているところでもあります。用地取得については、一部は土地開発公社の活用を含め契約は完了しています。

平成28年度は先行取得した用地の買い戻しと、一部工事に取りかかる予定でもありません。平成30年度完成まであと一息のところまで来ました。年数がかかりますが、財政の状況を見ながら今後も早期完成に向けて努力していきたいと思っております。

駒寄スマートインターチェンジの大型車対応化事業。現在では、1日6,000台近い利用交通量で、全国のスマートインターの中でもトップクラスの利用台数を誇っています。大型車対応が可能となれば、利用者の利便性の向上はもちろんのこと、産業の活性化、観光の振興、雇用の拡大、広域連携、防災や災害時の対応の強化などの効果が期待できます。

平成29年度完成、供用開始に向けて事業が進められているところでもあります。平成28年度には、用地取得、文化財調査及び移設補償などを行う計画となっております。今後も、前橋市、ネクスコ東日本と連携を密に図り着実に推進していきたいと思っております。

交通網の整備については、これまで何度も県道前橋伊香保線吉岡バイパスの延伸を県にお願いしてきましたが、なかなか事業化のめどが立ちません。既にご承知のように、昨年、渋川市と「渋川市及び吉岡町地域連携協定」を締結いたしました。県道前橋伊香保線吉岡バイパスを国道17号線前橋渋川バイパスと駒寄スマートインターチェンジを結ぶ幹線道路と位置づけ、両市町で県道認定、早期事業着手を強く要望していくことを確認しているところでもあります。

また、交通政策として、JR上越線八木原駅周辺整備についても、渋川市と連携を図っていくことが提案されています。さらには、近隣駅の整備の動向として、群馬総社駅西口整備計画は、前橋市が都市計画決定の手続を完了しています。西口は、吉岡町にとっても早期完成が待たれるところです。とりわけ吉岡町では、吉岡バイパスからのアクセス道路の整備と駅周辺の駐車場の確保が望まれるところでもあります。

新駅設置については調査研究を重ねてきましたが、今すぐに取りかかることのできる状況ではないことが、調査結果から方向づけられました。近隣駅の動向を踏まえながら、長期構想として考えていきたいと思っております。

8番目といたしまして、上水道老朽管布設替え。吉岡町の水道管総延長は、約200キロメートル余りです。そのうち、未改修の石綿管の延長は約13キロメートルで、これまで少しずつ布設替え工事を実施してきました。

しかし、単独事業では思うように改修延長が伸びませんでした。防衛省施設周辺対策整備事業により平成27年度から平成32年度の6カ年事業を進めているところです。1年目に実施設計を、平成28年度からは5カ年計画で本工事を実施していく予定でもあります。安全な水を安定供給することに、これからも努めてまいります。

最後に、町民と行政が協働するまちでは、町民と行政の協働による元気なまちを目指し、住民活動の活性化、人権尊重のまちづくり、男女共同参画の推進、都市間交流の推進、行財政運営の透明化と効率化の推進、健全な財政運営と自主財源の確保と広域行政の推進などに努めます。

具体的な主な事業としては、総合戦略に盛り込まれている事業では、町のイメージアップ事業。新規事業でもあります。第5次総合計画のよしおか再発見プロジェクトの一環として位置づけられている事業です。「吉岡の魅力」をホームページに掲載し、町の内外の人に魅力を発見、また再認識していただくことを目的に行うものでもあります。

ホームページ改修事業。こちらにも新規事業でもあります。現在の町のホームページは、立ち上がってから15年ほど経過して、その後改修を行いましたが、やはり10年ほど経過しております。町の行政情報、先ほどの「町のイメージアップ事業」のようなまちの魅力、観光特産品情報等、情報発信の充実強化、並びに閲覧者のため見やすさの向上を図る必要があることから改修するものでもあります。

次に、総合戦略の対象外の事業として、公共施設等総合管理計画策定業務は、新規事業でもあります。長期的視点に立って、公共施設の全体を把握し、総合的かつ計画的な管理を行うために、将来人口や財政状況の見通しを踏まえて、長寿命化、統廃合などの基本的な方針を策定するものでもあります。

本計画策定は、平成28年度までに全ての自治体で策定することになっており、策定費用の2分の1が特別交付税で措置されるものであります。

よしおか再発見ウォーク。よしおか再発見プロジェクトは、埋もれている吉岡町のよいところをもう一度見直し、よさを知ってもらおうとする企画でもあります。再発見ウォークと銘打って町内の名所、旧跡を訪ねて歩く参加者に新たな発見に気づいてほしいと町内を散策します。自治会の引率や交通整理、歴史散歩の会の方々、ボランティアの案内人、商工会のおつきりこみサービスなど、町民と行政の協働のまちづくりにふさわしく、各分野の支援を受けて実施しています。町民からも大変人気の高い行事で、健康志向も加わり、参加者から好評をいただいております。

こうした事業を成長させ、さらに定着させていくことで、子供からお年寄りまで世代を超えて多くの人々にこの町を一層好きになってほしいと考えているところであります。

よしおか健康ナンバーワンプロジェクト。健康で長生きは、誰しもの願いでもあります。よしおか健康ナンバーワンプロジェクトは、各地域で事業が展開されています。健康づくりの基本は体を動かすことと位置づけ、各自治会で健康推進員を中心に有酸素運動のほか、食育活動、心の安定の推進などの活動を基本に実施をしています。

こうして、自治会主催の行事やお祭りなど各地域で開催され、以前からこのまちに住む人と新しく移り住む人がうまく解け合って、地域コミュニティが形成されています。世代を超えての交流や町民と行政が協働するまちづくりを推進し「住みたい町」に吉岡町を選んでくれた人たちの期待に応えていかなければなりません。

各自治会では、道路愛護、河川清掃、資源ごみの回収作業と自主的な事業が展開されています。一方、地域のお祭り、伝統行事など、特色を生かした催し物が盛んに開催されています。町は、こうした自治会活動を応援し、ともに作り上げる協働のまちづくりを推進していきたいと思っております。

全般的に、子供を育てる支援、医療、介護、福祉、教育、行政がやらなければならないことは、これからももちろん取り組んでいきます。しかし、行政に頼らなくても、地域で、自治会で、あるいは個人ができることはできる限り自分たちでやるといった、自助、共助の社会形成の基礎づくりに、ぜひ住民皆様のお力をおかりしたいと思っております。

吉岡町は、前橋、高崎の中心都市に近く、生活に大変便利な地理的な条件が整っております。これも先人が築き上げた功績のおかげです。特に、利根川に橋をかける壮大な計画を実行した英断に称賛の念を抱かずにはられません。しかも、夢の実現のために、小さな町にとって到底不可能な大事業であっても、町の負担を幾らかでも軽くしようと構想した姿が目に見えます。

車社会の群馬では、確かに吉岡町は生活に便利な町でもありますが、近年、交通弱者と言われる高齢者、高校生など、車を運転できない方から、公共交通に対する要望が聞かれるようになりました。また、事実、今回町の人口ビジョン策定のアンケートの中でも、交通弱者に対する公共交通の整備を望む意見がありました。このことを真摯に受けとめ、町にとっても大きな課題として、町にとってどのような施策が有効なのか検討していきたいと考え、平成28年度当初予算に盛り込ませていただきました。

本気で町の将来を考えると、町民のことを思い、いかに事業を推進していくかは、職員はもちろんのこと、何よりも先頭に立つ町長の最大の役目だと心得ています。町の負担をいかに軽くし、その分を町民に何かしてやれないか、知恵を絞ってまいりました。

私が町長に就任した当時の約19億円あった財政調整基金は、道の駅の建設、学童クラブ施設の建設、駒寄小学校・吉岡中学校の校舎の増築、中学校体育館の建てかえなど整備を行いながらも、平成26年度末には約29億円まで積み立てることができました。

いかに歳入を確保できるか、該当になる補助事業はないか、町債による借り入れによる事業を行う場合であっても、交付税措置のある町債を優先して活用するなど、一丸となって考えてきた成果であると認識をしております。

事業を進めていく上で、これまでのように歳入確保の取り組みを行うことはもちろんであります。しかし、国や県の補助金などがないからといっても、必要な事業を実施しないということがあってはならない場合もあると考えております。

第5次総合計画の施策を確実に達成するため、また実質公債費比率の抑制といった財政健全化も考慮した中で、平成28年度予算は多額の財政調整基金を取り崩す予算編成となっております。どうぞご理解をお願いいたします。

町民福祉のため、どうか皆さんのお知恵をおかりしながら、これからも行財政運営に取り組んでいきたいと思っておりますので、お力添えをお願いするものであります。

一般会計、特別会計のそれぞれが着実に成果をあらわせるよう、また貴重な財源を有効に生かせるよう、住民の意見に真摯に耳を傾け、また視野を広げ、精いっぱい取り組んでいく所存です。どうぞ皆様方のご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

私の町長任期も3期目の2年目を迎えるようとしています。これまで手がけてきた事業をしっかりと進めていきます。「前へ、前へ」を念頭に、前進する吉岡町づくりに全力を尽くします。

「将来に責任の持てる町政を」が私の信念です。将来に禍根を残すことのないよう、しっかりと熟慮を重ねてまいりたいと思っております。

議員皆様には、特段のご支援、そしてご助言やご提案をいただければ幸いです。どうか一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

本定例会では、平成28年度の一般会計並びに特別会計当初予算案、また補正予算案を初めとする議案30件並びに報告2件、諮問1件を上程させていただきました。何とぞ慎重審議の上、いずれも原案のとおり可決、承認くださいますようお願いを申し上げます。

皆様方におかれましては大変お忙しい中ですが、どうかよろしくお願い申し上げます。本日は大変お世話さまになりました。ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

議 長（岸 祐次君） ただいま町長の施政方針の演説が終わりました。

この町長施政方針に対する質問は、あすの議事日程の最初に、通告のあった5人の議員

によって行います。

散 会

議 長（岸 祐次君） 以上をもちまして、本日の日程は終了いたしました。

これにて散会します。

お疲れさまでした。

午後4時06分散会